

經濟・經營学科 専門教育科目

<p>学是 (学則第1条の2)</p>	<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>		
<p>経済学部の人材養成及び教育研究上の目的等 (学則第3条の3)</p>	<p>経済学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)</p>	<p>経済・経営学科は、総合的な教養、経済分野での多様な専門知識を身につけ、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の直接的な担い手となる人材を養成することを旨とする。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。 【主体性・協働性】経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。</p>
	<p>【経済・経営学科】経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の直接的な担い手となる人材を養成することを目的とする。</p> <p>【地域創造学科】地域創造学科は、経済・経営学の科目を基盤に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)</p>	<p>経済・経営学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、6つの領域(生活経済、金融・会計、公共マネジメント、経営管理、スポーツビジネス、ビジネス実務)で求められる幅広い知識を修得する科目を配置する。2. 専門教育科目は、「経済学関連科目」、「経営学関連科目」、「演習科目」を中心に、ビジネス社会の汎用的科目群を体系的に配置する。3. さらに専門教育科目では、社会人として必要とされる能力の可視化として、資格取得を目指す科目を配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「課題探求能力」、「課題解決能力」、「調査・分析能力」、「コミュニケーション能力」、「実践力」を育む。 【教育方法】1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。2. グループ学修においては、協働性・協調性を身につけ、課題解決能力や実践力が身につけられるよう指導する。3. 演習においては個別の習熟度を見極め、きめ細やかな個別指導を実施する。 【教育評価】1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことにより認定する。</p>

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(◎特に関係する ○関係する)			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	職業人入門	1・前	この講義では、九州共立大学に在籍する4年間に「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とします。我が国の経済や組織の経営で現実に行き起きていることを知り、興味を持ってもらうことからはじめます。そのため、経済学部教員のみならず、外部の専門家をゲストに迎え、より身近な話題を提供します。	1 経済や経営の動きに興味を持つことができる。2 経済や経営の動きへの興味を深めることができる。3 経済や経営の動きを理解するために、今後、どんな理論を学んでいくのか理解できる。	◎	○	○
コア科目群	職業人入門(再履修用)	2・前	この講義では、九州共立大学経済学部在籍する4年間に、「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とします。我が国の経済や組織の経営で現実に行き起きていることを知り、興味を持ってもらうことからはじめます。各方面の職業人の仕事に学ぶ意味で、幾人かの先人の事例を取り上げます。	1、経済や経営の動きに興味を持つことができる。2、経済や経営の動きへの興味を深めることができる。3、経済や経営の動きを理解するために、何を、どのように学ぶかを考えることができる。	◎	○	○
コア科目群	職業人入門(留学生用)	1・前	この講義では、九州共立大学に在籍する4年間に「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とします。我が国の経済や組織の経営で現実に行き起きていることを知り、興味を持ってもらうことからはじめます。そのため、経済学部教員のみならず、外部の専門家をゲストに迎え、より身近な話題を提供します。	1 経済や経営の動きに興味を持つことができる。2 経済や経営の動きへの興味を深めることができる。3 経済や経営の動きを理解するために、今後、どんな理論を学んでいくのか理解できる。	◎	○	○
コア科目群	経済学概論	1・前後	経済学は難しいと、学生からも社会人からもいわれている。これは経済学特有の言葉に慣れ親しんでいないことが大きな理由である。したがって、経済学を学ぶためには、経済学特有の言葉に慣れ親しむことが望ましい。経済学概論は、経済学特有の言葉に慣れ親しむことを目標として、講義を行なう。ミクロ経済学入門などでも、経済学特有の言葉を紹介するが、ミクロ経済学入門などよりも、より現実の経済に則した題材を基にして紹介していく。	・社会経済現象に関心を持つようになる。・経済学特有の言葉がどのようなものか知ることが出来るようになる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	経済学概論(再履修用) (留学生用)	2-3・前後	本講義では、経済学の基本的な概念や基本的な語句を学ぶ。例えば、「需要」と「需要量」は相違する概念であり、違った意味内容であることなどを説明する。基本的な概念や基本的な語句は、英語の単語と同様に、覚えなければいけないものであることを強調し、講義を行なっていく。また、計算を苦手とする学生は、乗数効果に説明に際しては計算を行なうので、そのことに留意して欲しい。	・社会経済現象に対して関心を持つようになる。・自分の考えを経済学の言葉で説明できるようになる。	◎	○	
コア科目群	経営学概論	1・前	本講義は、主に経営学を初めて学ぶ学生諸君を対象とした「経営学」の導入科目であり、その基本分野(企業システム、経営戦略、経営組織、経営管理)の基礎的知識(理論)を幅広く解説します。経営学という「学問そのもの」にまずは興味・関心をもってもらうことが目標ですが、それに加えて受講学生の皆さんが現実の会社経営や産業のあり方について十分な基礎的理解を得られるよう、また関心をもってもらえるように、できる限り多くの企業/業界の事例を取り上げていく予定です。	・経営学の各領域における基本的な理論/考え方について、その内容・目的等を適切に説明できる。・新聞・雑誌等に掲載される企業・業界関連記事の概要を理解し、その要点を適切に説明できる。・経営学検定試験(大学生修得レベル)の出題領域に対応する必要知識の40%程度を習得できる。	◎	○	
コア科目群	経営学概論(再履修用) (留学生用)	1・後	現代におけるわれわれの便利な生活は、企業によって支えられているといっても過言ではない。こうした企業がどのような経営活動を行っているのかについて関心をもつようになると、経営学に関する知識が必要となってくる。本講義では、経営学の基礎概念・理論などを紹介・解説しながら、経営学の基礎知識を学んでいく。	経営学の基礎的な概念・知識を理解し、説明することができる。	◎	○	
コア科目群	簿記入門	1・前	複式簿記の構造、財務諸表の内容、簿記一巡の手続を中心に理解する。前半では、複式簿記の構造、財務諸表の内容、勘定科目の内容について説明する。これによって、複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、簿記一巡の手続について説明する。これによって、仕訳、試算表の作成ができるとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記初級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。	1. 複式簿記の構造について、説明することができる。2. 簿記一巡の手続きについて、説明することができる。3. 学習範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	◎	○
コア科目群	初級簿記【前半15回分】	1・後	複式簿記の構造、財務諸表の内容と作成方法、簿記一巡の手続について理解する。前半では、複式簿記の構造、主要簿及び補助元帳・補助記入帳について説明する。これによって、複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、英米式決算法と財務諸表の作成方法について説明する。これによって、財務諸表の作成ができるとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記検定3級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。	1. 複式簿記の構造について、説明することができる。2. 会計処理のルールとその考え方について、具体的に述べるができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 財務諸表作成に関する具体的な会計処理について、正確に行うことができる。5. 簿記一巡の手続について、説明することができる。	◎	◎	○
コア科目群	初級簿記【後半15回分】	1・後	複式簿記の構造、財務諸表の内容と作成方法、簿記一巡の手続について理解する。前半では、複式簿記の構造、主要簿及び補助元帳・補助記入帳について説明する。これによって、複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、英米式決算法と財務諸表の作成方法について説明する。これによって、財務諸表の作成ができるとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記検定3級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。	1. 複式簿記の構造について、説明することができる。2. 会計処理のルールとその考え方について、具体的に述べることができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 財務諸表作成に関する具体的な会計処理について、正確に行うことができる。5. 簿記一巡の手続について、説明することができる。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	職業と経済	1・後	前期開講の「職業人入門」を踏まえて、職業と経済の関係について考察する。経済社会の成り立ちを知り、その一員としての自覚を促し、自らの職業選択役立つよう、働くことの意味、職業の盛衰や技術進歩の影響、必要な能力の変化などについて解説する。また、経済・経営分野での数字への感覚を身につけるため、いくつかの基礎的な数字について解説する。	1. 自分の将来の職業選択について具体的に考えるようになること。2. 職業に必要な能力について考えることができること。3. 経済や経営の、ごく基礎的な数字について、見当がつけられること。	◎	○	○
コア科目群	統計学入門	2・前	近年ビッグデータの時代と言われていますが、そのデータをどのように活用するかに関する基本を学びます。続く統計学の講義で実際にデータを問題解決に結びつけるための基礎となる理論を中心に学びます。得られたデータをどのように加工するか、どのような特徴・特性を持っているのかについて学習し、大量のデータから意味のある結論を導くための第一歩を踏み出しましょう。	1. データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる2. データの平均・分散(標準偏差)を求め、データの特徴を掴むことができる3. 記述統計と推測統計の違いを理解できる4. 統計を用いて自分が分析したいことを想定できる	○	◎	
コア科目群	ミクロ経済学入門	2・前	ミクロ経済学は個人として、企業として、私たちがどのような選択をするべきかについての基準を教えてくれる学問です。なるべく身近な話題を用いながら、消費者としての選択や企業としての行動がなぜ選ばれたのか、明解に解説します。経済活動にとどまらず政治やスポーツ、人間関係等に広く応用することができます。なるべく数式ではなく図を用いて直感的に理解できることを目的とします。	1. 価格の決め方を説明できる2. 消費者の行動基準、企業の行動基準を説明できる3. リスク・不確実性を適切に描写することができる4. 身近な事例をゲームとして表現して、自分が取るべき行動を判断できる	◎	◎	○
コア科目群	マクロ経済学入門	2・前	現在、日本は少子高齢化や巨額の財政赤字といった様々な問題を抱えている。本講義では、政府や地方自治体などの公共部門がどのような役割を持つのかをマクロ経済学的視点から解説し、財政赤字の現状などに即して政府のマクロ経済政策の課題とあり方について考察する。また、それらを経済循環として表現する方法にも焦点を当てた上で、財政政策の効果などを分析する。なお、プリント(UNIVERSAL PASSPORTで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①マクロ経済学の基礎理論を理解し、現実経済の動向を分析できる能力を身につける。②マクロモデルの違いを説明できるだけでなく、現実経済との関連性を理解できる。③日本経済の現状と課題について問題意識を持ち、それらの問題に対して自分なりの分析を 実践できる。④様々な政策課題に対して問題意識を持ち、その解決策を提案できる。	◎	○	
コア科目群	経済史	2・前	経済は、財やサービスが生産され、流通し、そして消費されるという点から見れば、生存に最も必要な人間の営為のひとつです。経済史は、人間の経済を歴史的営為として自覚し叙述したものに他なりません。経済史の叙述は、社会や人がそうであるように多様です。一国を軸にしたものからグローバルな視点にもとづくもの、経営や企業家に関するものまで多様です。この講義では、経済史学に関するいくつかの方法を紹介した上で、具体的な叙述について解説したいと思います。	・物事を見て説明するには筋道を立てることが必要であることが理解できる・多くの事実を情報として知覚し、物の見方を通じ取舍選択する必要性の理解につながる・経済事象を長期的スパンからストーリーとして見ることができる・経済を通じて人類共通のシステムを理解することができる	◎	◎	◎
コア科目群	会社入門	2・前	本講義では、現代(日本の)企業システムに関する基礎的知識の習得を目指します。前半は、会社(企業)の種類や特徴、社会的な役割などについて学び、中でも株式会社と株式市場の仕組み、またコーポレート・ガバナンス(会社統治)の問題に重点を置いて解説していきます。後半は、「企業間関係」の問題に焦点を当てて、企業間競争のあり方、M&A(企業の合併と買収)、また日本の企業システムに固有のグループ戦略や系列組織について解説し、広く(日本の)会社組織の行動原理について学んでいきます。	・株式会社および株式市場、また会社統治の仕組みとその役割など社会人として必要とされる 企業関連の基礎的事項について説明できる。・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、適切にその理由やポイントを説明 することができる。・経営学検定試験(大学生修得レベル)の「企業システム」領域について60%程度の知識を 修得することができる。	◎	○	

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	会計入門	2・前	『利益』に繋がる会計を中心に講義を実施する。会計学の基礎概念(資産、負債、純資産、収益、費用)を理解し、複式簿記の原理を確認しながら、損益計算書及び貸借対照表の意味と構造を解説する。受講生の理解度や興味に応じた授業を行います。	1.「会計」についての基礎知識が修得できる。2.「利益」を誰にでも説明できるようになる。3. 社会人として必要な財務諸表の知識を身につけることができる。4. 時事問題に対して反応できるようになる。	◎	◎	○
コア科目群	企業経営入門	2・前	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界や学会では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念と用語を講義・解説するとともに、産業界の最新トレンドを解説していきます。	1.経営体や経営学の全体像がわかる。2.経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。3.産業界のトレンドが理解できる。	◎	◎	◎
コア科目群	商業の歴史	2・前	商業は、歴史上、古くから存在していた産業であるとともに、現代の経済においても大きな比重を占めている。しかしながら、こうした特徴をもつ商業の歴史的な展開の過程を顧みる機会は少ない。本講義では、商業史を学ぶうえで前提となる商品・貨幣・信用などの概念を説明したのち、前近代から近代における日本の流通・金融・貿易などの分野に焦点をあてる。われわれの日常生活と密接なかわりをもつ商業を歴史的な観点から考える。	日本における商業の歴史的形成・発展過程について説明することができる。	◎	○	○
コア科目群	日本経済論入門	2・前	本講義は、日本経済の成り立ちから、今日までの発展の経緯を踏まえて、日本経済の姿を生産・分配・交換・消費の側面から解説し、さらに、今後の課題を論じるものである。受講生には、目下、自らの生活の基盤をなすものとして、世界の中の日本経済の現状およびその課題について考えてもらうために、基礎的事項を平易に解説したい。	①日本経済の課題と自分との関係を考えることができること。②日本経済の基礎的事項を理解し、自らの活動に役立てることができること。	◎	○	○
コア科目群	日本経済史	2・後	この講義では、日本経済の発展を歴史的に把握することを目標とします。歴史的にみて日本は江戸時代、現代社会に通じる市場経済を軸とした経済社会が成立しました。その後日本は、幕末に開港して世界市場の一環に加わり、さらに明治維新以後の様々な変革を通じて経済の近代化を図りました。そうした史実をふまえてこの講義では、日本における市場経済を軸とする経済発展の礎となった時期である近世(江戸時代)の経済史を講義します。講義は前半部分は近世の経済構造を、後半部分では市場経済の発展を特に産業発展からそれぞれ解説します。	・日本における市場社会の始まりと展開を学ぶことができる・現在に通じる長期的なスパンから日本経済の展開を知ることができる	◎	◎	○
コア科目群	マクロ経済学	2・後	本講義では、マクロ経済学の基礎理論を用いてマクロの経済問題を解説するとともに、マクロ経済学がどのようにモデルを拡張しながら、一国全体の経済問題を研究しているかを考察する。なお、拡張する前後の違いを式やグラフで視覚化しながら解説するので、一次方程式や直線の図解に関する基礎的な数学的知識が必要である。また、IS-LM分析はグラフの導出過程やシフト過程等を説明した上で、経済政策等が及ぼす影響を分析する予定である。なお、プリント(UNIVERSAL PASSPORTで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①マクロ経済学の基礎理論を理解し、現実経済の動向を分析できる能力を身につける。②マクロモデルの違いを説明できるだけでなく、現実経済との関連性を理解できる。③経済政策が及ぼす影響をマクロ経済学の基礎理論で判断できるようになる。④マクロ経済学の課題に対して問題意識を持ち、その解決策を考察できるようになる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	ミクロ経済学	2・後	ミクロ経済学は個人として、企業として、私たちがどのような選択をするべきかについての基準を教えてくれる学問です。なるべく身近な話題を用いながら、消費者としての選択や企業としての行動がなぜ選ばれたのか、明解に解説します。経済活動にとどまらず政治やスポーツ、人間関係等に広く応用することができます。入門と類似する内容でも本講義は簡単な数式としても理解できるようになることを目的とします。	1.価格の決め方を説明できる2.消費者の行動基準、企業の行動基準を説明できる3.リスク・不確実性を適切に描写することができる4.身近な事例をゲームとして表現して、自分が取るべき行動を判断できる	◎	◎	○
コア科目群	統計学	2・後	データの活用は、できて当然の時代となりました。しかし、データの活用には基礎的な知識を必要とします。本講義では基礎的な知識の修得を目的とします。基礎的な知識の習得のためには、実際に電卓を使って標準偏差等の計算をしてみることが、習得するのに最も役立ちます。このため、本講義では毎回電卓を持ってくることを義務とし、持っていない場合には何らかのペナルティを課す予定です。	・データの平均・分散(標準偏差)を求めることができるようになる。 ・独立性の検定ができるようになる。 ・単回帰方程式の計算ができるようになる。	◎	○	
コア科目群	経済とデータ分析	3・前後	本講義では、ビジネスシーンにおける実践的な情報処理スキルを身につけることを目的とする。具体的には、マーケティングリサーチの概要、統計学の概説を理解したうえで、データ分析・回帰分析・近似曲線などの分析手法、顧客満足度調査を学習する。さらに、意思決定手法として非線形関数の極値、線形計画法、階層分析法、多目的最適化手法に関して演習中心に学習する。なお、本講義では随所でWeb検索や表計算ソフトExcelを使用する。	1. 統計学の基礎およびマーケティングリサーチの概要に関する問いに対して80%以上正答することができる。2. 表計算ソフトExcelを用いたデータ分析・回帰分析・近似曲線分析を独力で操作することができる。3. 学習した意思決定手法に関する問いに対して80%以上正答することができる。	○	◎	○
コア科目群	経済学特講 I 【自治体の財政運営と財政健全化】	3・後	当講義では、地方自治体(地方公共団体)が住民の生活を支えるうえで果たしている役割を踏まえたうえで、どのような制度の下で財政運営を行っているのか、また、どのようなルールや仕組みが財政破綻に陥らないように地方自治体を律しているのか、解説します。特に、地方自治体の自発的な財政健全化を促す仕組みが組み込まれている地方財政健全化制度に焦点を当て、具体的なルールと実際の財政健全化の成果などを紹介します。	・個別の地方自治体が現実にとどのような財政運営を行っているのかを理解する。 ・個別の地方自治体による健全化への取組み内容と成果について、自分の言葉で説明できる。	◎	○	
コア科目群	経済学特講 I 【経済学における人間】	3・後	経済学の理論では、合理的行動をする「経済人」が仮定されます。しかし、「経済人」と現実の人間とを比べて、違和感を持つ人があるかもしれません。この授業では、経済とは何かという基本的な問いに始まり、人間観の変遷や、経済学における人間像、政策と予測、さらには人類社会の基盤や課題について取り上げ、次のようなことを目標とします。	①経済学における人間観(人間の捉え方)を知ることができる。 ②地球に生きる人間としての課題、政策行動における人間的側面を考察することができる。	○	◎	○
コア科目群	経済学特講 I 【公務員試験】	3・後	本科目は、公務員(行政職・警察官・消防官等)を目指す学生を対象として、公務員試験の一次試験や二次試験で行われることが多い論文・作文の書き方についての講義を行います。試験の種類によって異なりますが、論文試験・作文試験では、概ね800字～1200字を60分～90分程度で書いていかなければなりません。また、出題テーマも試験によって様々であるため、時事問題を理解した上で、文章の構成の仕方や論理的な書き方を身に付ける必要があります。したがって、これらの対策講座を行います。	① 時事問題を理解し、説明することができる。② 文章の構成の仕方や論理的な書き方を身に付ける。③ 各公務員の職務内容についてよく理解し文章に反映することができる。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	経営学特講Ⅰ【社会人基礎講座】	3・後	本講は、社会人として必要とされる知識や能力を身につけることを目的としている。そのためには、社会人基礎力、社会常識、「考える力」について理解を深めるとともに、読み・書きを通して基礎力の向上を目指す。	1. 社会や職業に興味・関心をもつようになる。2. 社会人や職業人に必要な基礎知識を理解することができる。3. 情報を読み解くことができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅰ【国際経営論】	3・後	「もの」「人」「情報」「金」が国境を超えて流通され、企業はこれらの資源の最大の流通媒体になっています。一方、世界的には、市場統合と地域化が同時に進むことで、企業行動をめぐる問題の所在が大きく変わりつつあります。そこで、本講義では、企業の国際化行動について、事例をふまえて、右記の諸点を検討することにより、アジアの主要企業の行動の変化を理解し、さらには我々がどのように関係するかを講義していきます。	1.国際化によってもたらされた企業経営の課題がわかる。2.国際化と企業活動にかかわる基本知識が得られる。3.各専門分野の基礎概念及び用語が理解できる。	◎	◎	◎
コア科目群	経営学特講Ⅰ【ビジネスとプレゼンテーション】	3・後	実社会ではビジネスシーンを中心とした様々な場面で、自らの考えや企画などを関係者に開示しアピールし、理解を得て賛同を獲得することが求められるようになります。アピールコンテンツ自体が正しくかつ魅力的であることが大前提なのは言うまでもありませんが、それを正確にそしてより魅力的に伝えるためには、伝達技法にも留意した合理的・効果的のプレゼンテーションが不可欠です。この授業では、そうしたプロセスで必要とされる様々なスキルを、就職活動への応用も意識しながら実践的に学びます。	1. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる2. 理解した情報を伝達可能なコンテンツに合理的に再構築できる3. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを正確かつ魅力的に構成できる4. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを口頭で伝えることができる5. プレゼンテーション用アプリケーションの効果的な利用ができる	○	◎	◎
コア科目群	経営学特講Ⅰ【ISO9001】	3・後 後期集中	この科目は、企業や行政機関に導入しているISO規格を内部監査する資格を有する人材を在学中に資格取得させる授業である。後期の集中講義(4日間)を受講することにより、品質マネジメントシステム(ISO9001)内部品質監査員の資格を取得することができる。(有料)試験の合格者は70点以上とする。詳細は掲示板に記載する。	品質マネジメントシステム(ISO9001)を4日間で資格を取得することにより、国際規格の専門性を正確に理解し企業の品質改善活動に適切な意思決定と行動を行うための内部品質監査員としての力量を備える。	○	◎	◎
コア科目群	経済学特講Ⅱ【住宅の経済学】	4・前	当講義では、どの地域に住むのか、持家と借家のどちらに住むのかという個人の選択は何に基づいて行われているのか、家賃や地価(住宅価格)はどのようにして決まるのか、住宅政策はこれらにどのような影響を及ぼしているのかなど、住宅を巡る様々なトピックスを経済学の基礎的な考え方の範囲内で解説します。	・住宅価格の決まり方や住宅政策の効果を経済学の考え方に沿って説明できる。	◎	○	
コア科目群	経済学特講Ⅱ【市場と政府】	4・前	この授業では、市場の役割と政府の役割について考えます。社会主義国では計画経済体制から市場経済への転換が進んできました。経済システムの基礎や体制転換、市場の失敗や政府の失敗、なども解説します。さらに、グローバリゼーションについても学びます。	①市場経済と計画経済の歴史を知り、両者の違いについて考えることができる。②市場の役割と政府の役割を知り、自らの活動とのかかわりを知り、自分の確立に役立てることができる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	経済学特講Ⅱ【公務員試験】	4・前	本科目は、公務員(行政職・警察官・消防官等)を目指す学生を対象として、公務員試験の一次試験や二次試験で行われることが多い集団討論や面接対策についての講義を行います。試験の種類によって異なりますが、集団討論や面接においては、時事問題や各公務員の職務内容に関するテーマが出題されたり質問されるため、よく理解しておく必要があります。これらの対策講義を行いますので、公務員を目指す学生は、是非履修してください。	① 時事問題を理解し、説明することができる。② 各公務員の職務内容についてよく理解し説明することができる。③ 論理的な思考および説明能力を身に付けることができる。	◎	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅱ【社会人基礎講座】	4・前	本講は、社会人として必要とされる知識や能力を身につけることを目的としている。そのためには、社会人基礎力、社会常識、「考える力」について理解を深めるとともに、読み・書きを通して基礎力の向上を目指す。	1. 社会や職業に興味・関心をもつようになる。2. 社会人や職業人に必要な基礎知識を理解することができる。3. 情報を読み解くことができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅱ【ビジネスとプレゼンテーション】	4・前	実社会ではビジネスシーンを中心とした様々な場面で、自らの考えや企画などを関係者に開示しアピールし、理解を得て賛同を獲得することが求められるようになります。アピールコンテンツ自体が正しくかつ魅力的であることが大前提なのは言うまでもありませんが、それを正確にそしてより魅力的に伝えるためには、伝達技法にも留意した合理的・効果的のプレゼンテーションが不可欠です。この授業では、そうしたプロセスで必要とされる様々なスキルを、就職活動への応用も意識しながら実践的に学びます。	1. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる 2. 理解した情報を伝達可能なコンテンツに合理的に再構築できる 3. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを正確かつ魅力的に構成できる 4. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを口頭で伝えることができる 5. プレゼンテーション用アプリケーションの効果的な利用ができる	○	◎	◎
領域科目群	会社法	2・前	会社法は、企業形態の一つである会社に関する法律です。この会社法は、会社をめぐる様々な利害関係を調整し、法律関係を円滑に処理する役割を担っています。ニュースや新聞紙上でも、株式、株主総会、M&Aといった会社法に関する用語が頻りに登場しますが、会社法は、ビジネスパーソンにとって大変身近な法律であるのです。この授業では、株式会社を中心に会社法の基礎を体系的に理解できるように、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点から授業を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。① 会社法の基本的仕組みを理解できる。② 会社法の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	◎	○
領域科目群	金融と会計	2・前	企業の財務諸表の体系と内容について理解する。また、その作成方法を身につける。前半では、株式会社の財務諸表について、その内容と考え方を説明する。これによって、財務諸表における各論的な知識を得ることができる。後半では、財務諸表を分析する指標について説明する。これによって、財務諸表のデータを読み取り方を身につけるとともに、その企業における問題を発見できるようになる。	1. 財務諸表のそれぞれの機能及び財務諸表の関係性を理解できる。2. 財務諸表分析の指標を理解できる。3. 企業の財務諸表を分析できる。			
領域科目群	財政学入門	2・前	当講義では、財政学の考察対象を網羅的に紹介したうえで、政府の予算制度を中心にして国民経済的な見地から政府活動の実態とその効果について解説します。制度の説明に際しては、現実の予算・決算の資料や最新の統計数値を利用する一方、理論の解説に際しては、マクロ経済学の考え方も応用しつつ、図を効果的に用いることで、わかりやすい講義内容にします。財政の経済安定化機能を実践的に学びます。	・新聞等で報道されている日本の財政状況について、客観的に事実を整理することができる。・問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できる。	◎	○	

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	民法(総則・物権)	2・前	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、基本的原則を定める「総則」編と、物に対する権利を定める「物権」編について学びます。法律知識を身につけながら、民法と私たちの身の回りの出来事やどのように関わっているかを説明します。そのために、以下の方法で行います。・総則・物権に関する基本的な知識を条文に即しながら説明する。・総則・物権について、具体例を挙げながら説明する。	①民法の基本的な原則を説明できる。②民法の物権の具体的な内容を説明できる。③総則・物権編の基本的な法律用語を説明できる。④私たちの生活に民法がどのように関わっているかを説明できる。⑤身の回りの問題を法的に捉えて、自分の頭で考えることができる。	○	◎	○
領域科目群	中級簿記【前半15回分】	2・前	企業の日々の経済活動を記録・計算・集計し、結果として経営成績、財政状態を明らかにするツールが簿記である。本講義では企業のうち商企業の活動を対象とした商業簿記を学ぶ。まずは簿記一巡の手続きを復修し、その後現預金・有価証券・固定資産・商品売買等の個々の重要な論点を整理し、それらの取引から発生する仕訳、帳簿記入について学習をすすめる。税理士としての経験を活かし、実務上の論点なども踏まえながら授業を展開する。会計関連の資格取得を目指す学生にとっても有益な授業とする。	1) 簿記の一巡の手続きを理解することができる。2) 現預金、有価証券、固定資産、等の記帳を理解することができる。3) 株式会社のしくみ、役割について理解することができる。4) 本支店会計について理解することができる。5) 実学としての簿記が社会に果たすべき役割を理解することができる。	○	◎	○
領域科目群	中級簿記【後半15回分】	2・前	企業の日々の経済活動を記録・計算・集計し、結果として経営成績、財政状態を明らかにするツールが簿記である。本講義では企業のうち商企業の活動を対象とした商業簿記を学ぶ。まずは簿記一巡の手続きを復修し、その後現預金・有価証券・固定資産・商品売買等の個々の重要な論点を整理し、それらの取引から発生する仕訳、帳簿記入について学習をすすめる。税理士としての経験を活かし、実務上の論点なども踏まえながら授業を展開する。会計関連の資格取得を目指す学生にとっても有益な授業とする。	1) 簿記の一巡の手続きを理解することができる。2) 現預金、有価証券、固定資産、等の記帳を理解することができる。3) 株式会社のしくみ、役割について理解することができる。4) 本支店会計について理解することができる。5) 実学としての簿記が社会に果たすべき役割を理解することができる。	○	◎	○
領域科目群	イベント論	2・前	イベントと言っても、プロ野球、Jリーグ、Bリーグのようなスポーツイベントからアイドルグループのライブのような音楽イベント、また北九州では有名な地元の祭りまで様々なものがあり、地域の人々の生活に潤いを与える重要なものである。チケット収入等を得て開催されるイベントが、どのように成り立ち、開催までにどんな準備・運営をされているのか、味の素スタジアムでの実務経験を活かして解説する。本講義を通じて、日本イベント産業振興協会「イベント検定」受験が可能となる。	①イベントの基礎知識を習得し、イベントについて説明できる ②イベントの構造を理解し、スタッフとして働く基礎ができる ③身近にある様々なイベントに応用できるようになる ④イベントを企画、運営する会社・団体について理解を深め、就職活動の視野に入れる	○	○	◎
領域科目群	環境のビジネス	2・前	企業に求められる社会的責任のうち、特に外部への環境に与える影響とその緩和策について概観する。いくつかの会社のCSR報告書を概観し、その実態を把握する。また国際標準化機構ISO14001の骨格を理解できるようにする。	企業のCSR報告書の構成と内容を理解できる。企業が取り組む環境保全の取り組みを理解する能力を身に付けることができる。企業のCSRを理解することにより我が国の環境行政の在り方と国際貢献について広い知見を持つことができる。	○	○	◎
領域科目群	人口学	2・前	少子化・高齢化が進む中で人口減少は、日本の経済社会に多大な影響を及ぼすことが懸念されている。そのような状況では、人口データの性質を把握し、人口が経済社会に及ぼす影響を客観的に分析する能力とその分析結果の意味を理解する能力が重要と思われる。そこで、本講義では、上記の事を念頭に置いて、人口学で用いられる分析方法や結果の解釈等を体得するための講義を実践的に進める。なお、プリント(UNIVERSAL PASSPORTで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①少子・高齢化の現状及び将来動向についての基礎知識を習得する。②人口モデルの数値から人口変動の動向などを判断することができる。③人口変動と経済社会の関係を把握して、経済社会の将来を見通すことができる。④実践的な分析力を習得し、人口問題の解決に寄与できる能力を身につける。	○	◎	

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	非営利組織論	2・前	今日、非営利組織は社会のニーズに応える新たな存在として関心が高まってきており、行政や営利企業でもない第3の主体として重要な役割を果たすことが期待されています。そこで、地方公務員として、まちづくり、教育、地域医療等に従事したのち、NPO法人や株式会社を設立・経営している経験を活かし、それぞれの視点から非営利組織を捉えて、その概要や社会的意義を明らかにしていく授業を展開します。さらに、その実体から見えてくる特徴や課題、可能性を整理しながら非営利組織に対する理解を深めます。	①非営利組織について実態や特徴を把握して説明できる。②グループワークに積極的に参加して、説明・発表ができる。③非営利組織を正しく理解して、将来の具体的な職業をイメージすることができる。	○	◎	◎
領域科目群	憲法	2・前	本講義では、国の基本法である日本国憲法を学びます。選挙権の低年齢化、安全保障、新しい人権等憲法をめぐる問題がクローズアップされています。基本に立ち返って、憲法が国民に対し保証するものは何か、憲法は何を守る法律なのかについて考察していきたい。同時に公務員試験対策として公務員試験に必要な演習も行っていく。	①憲法の目的とすることを説明できるようになる。②憲法の主要条文の内容、精神を説明できるようになる。③憲法の全体構造を理解し説明できるようになる。④公務員試験の択一・論述問題に対応できるようになる。	○	◎	○
領域科目群	スポーツビジネス入門	2・前	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義では数多くあるスポーツビジネスの概略について触れていき、「難しい！」と敬遠するのではなく「面白い！」と興味を持つことから始めていきます。そのためには、できるだけ多くのリアルなスポーツビジネスを知ることが近道です。全体を傍観するよりは部分的にでも少しだけ踏み込んで調べてみる、実際に関わっている方々に話を聞く、臨場感を味わうことを奨励します。毎回の講義に出席する前に課題を設けるだけではなく、時々まとめのレポートも課します。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えに興味を持って真剣に聞くことができる。□重要事項をメモに残し、まとめることができる。□情報化社会に対応する基礎力を高めることができる。□与えられた課題について敏速に対応できる。	◎	◎	○
領域科目群	ビジネス実務総論A	2・前	本講義ではビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネスにおける実務、そのマネジメント、ビジネスを取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで幅広く習得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎
領域科目群	日本経済論	2・後	日本はかつての高度経済成長から低成長の時代に入り、近年では人口構造の変化や発展途上国の追い上げにより、相対的に停滞しています。日本経済再生のためには、歴史的な変遷と現状を正確に把握することが必要です。この授業では日本経済について、全体的な動向を歴史的にたどり、ついで個別の論点について講義します。	・日本経済の概要を理解し説明することができる。・政府や産業や企業の動向を知る事ができる。・現在および将来発生するであろう社会経済をめぐる諸問題を理解することができる	◎	◎	○
領域科目群	金融論入門	2・後	金融の定義、目的と機能、および経済社会に対する効果を取り上げる。主に4つの側面から金融を分析し、理解することを狙う。第1:まず初めに金融業界・業態の全体像を俯瞰して、それぞれが果たしている金融機能を見る。第2:金融取引をする際の基本的構成要素の経済学的な意味を解説する。第3:資金需給のニーズや、そのための仕組みを解説する。第4:金融のマクロ経済学的な側面について学習する。金融実務経験に基づき、現代マイクロファイナンスの現状を織り交ぜて講義します。	・必要最小限度の金融リテラシーを理解している。・イメージではなく、経済学の基礎に基づいて金融の機能と効果を理解している。・各金融業態や金融機関の目的、機能と特徴を理解している。・金融機関、金融政策およびマクロ経済に及ぼす影響について理解している。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	商法総則	2・後	本講義は、商法「第一編総則」を対象とします。商法は、商人及び企業取引に関する法律ですが、その基礎をなす商法総則の基本概念・制度趣旨を中心に講義を行います。平成17年の会社法制定により、現在、商法総則の規定の大部分は、個人商人にのみ適用されますが、商法総則と会社法総則の多くは共通していることから、個人商人特有の問題に関し、会社組織との対比を念頭におきながら講義を行います。また、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点からも授業展開を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての商法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。① 商法の基本的仕組みを理解できる。② 商法の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な商法の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	◎	○
領域科目群	経済政策入門	2・後	この講義では、経済政策が、経済社会の運営のための学問であるとの視点から、経済政策の考え方や基礎理論を解説します。そして、全体を三つに大別し、まず、導入として経済問題の構造と解法、現代経済政策学の体系等を、次に、基礎的事項である、経済政策の目的・手段・主体・形成過程・評価を、さらに、「経済政策」への橋渡しとまとめも兼ねて、ミクロ経済政策とマクロ経済政策、現実の世界の政策課題、等について解説します。	①経済政策の基礎的事項を理解し得ること。②現代の経済政策の課題と、基礎的事項とのかわりを知り得ること。	○	◎	○
領域科目群	環境経済学入門	2・後	本講義では、環境保全と経済活動の密接な関係や様々な環境問題を分析するために必要とされる経済学的手法を学ぶ。環境経済学の課題を幅広く理解し、実践に活かせる問題解決能力を養う。私たちの生活と環境問題との関わりを考察しながら、環境検査企業にアドバイスした経験を活かし、環境の測定法並びに環境問題を解決するための基本的な考え方や環境の基礎理論を学ぶ。	①環境と経済の関係について、環境問題が社会・経済に及ぼす影響を説明できる。②環境保全のための経済的手法や専門的知識を習得し、応用できる。③環境問題への関心を高め、経済学の応用を通じて環境問題の現状や環境政策の意義・役割について理解を深め、環境問題を解決するための対策を自分なりに提示することができる。	○	○	◎
領域科目群	財政学	2・後	当講義では、租税と社会保障に焦点を当てて、各制度の内容とその経済効果を解説します。制度の説明に際しては、現実の予算・決算の資料や最新の統計数値を利用する一方、理論の解説に際しては、ミクロ経済学の考え方も応用しつつ、図を効果的に用いることで、わかりやすい講義内容とします。財政の資源配分機能と所得再配分機能を実践的に学びます。	・新聞等で報道されている日本の税制と社会保障について、客観的に事実を整理することができる。・問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できる。	◎	○	
領域科目群	民法(債権)	2・後	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、債権分野について学びます。他人に対して特定の行為を請求できる権利(債権)を学ぶことで、法律知識を身につけると同時に、身の回りの問題について法的観点から自分の頭で考えることができるように目指します。そのために、以下の方法で行います。・債権に関する基本的な知識を条文に即しながら説明する。・債権について、具体例を挙げながら説明する。	①様々な債権について具体的な内容を説明することができる。②債権分野に関する基本的な法律用語を説明することができる。③債権が私たちの生活にどのように関わっているのかを説明することができる。④身の回りの問題を法的に捉え、自分の頭で考えることができる。	○	◎	○
領域科目群	上級簿記【前半15回分】	2・後	製造業は企業内部で製品を生産している。その製造活動の記録・計算について理解する。前半では、実際原価計算における費目別計算及び部門別計算について、その内容と考え方を説明する。これによって、原価計算における計算段階に関する知識を得ることができる。後半では、実際原価計算における製品別計算および標準原価計算について説明する。これによって原価管理ができるとともに、原価計算制度について理解することができる。また、日商簿記検定2級工業簿記の出題範囲を網羅していることから、それについて解答することができる。	1. 原価計算の目的と原価計算制度の分類について、説明することができる。2. 実際原価計算の手続きについて、具体的に述べるることができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 標準原価の算定について、正確に行うことができる。5. 原価差異の算定および分析について、説明することができる。			

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	上級簿記【後半15回分】	2・後	製造業は企業内部で製品を生産している。その製造活動の記録・計算について理解する。前半では、実際原価計算における費目別計算及び部門別計算について、その内容と考え方を説明する。これによって、原価計算における計算段階に関する知識を得ることができる。後半では、実際原価計算における製品別計算および標準原価計算について説明する。これによって原価管理ができるとともに、原価計算制度について理解することができる。また、日商簿記検定2級工業簿記の出題範囲を網羅していることから、それについて解答することができる。	1. 原価計算の目的と原価計算制度の分類について、説明することができる。2. 実際原価計算の手続きについて、具体的に述べるることができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 標準原価の算定について、正確に行うことができる。5. 原価差異の算定および分析について、説明することができる。			
領域科目群	産業組織論入門	2・後	産業組織論は、産業全体としての成果を、次の視点から分析するものである。(1)企業の行動(2)市場構造(3)企業組織(4)政策それぞれの回が以上4つのどれにあたるのか意識しながら学ぶことで、経済を分析する視点が生身についていくはずだ。	1.企業の独占や複占が生じる環境とその帰結を理解できる2.企業を、人が集まる組織として理解できる3.企業の変容(分社化・M&A)がなぜ生じるのか自分なりの意見を説明できる4.企業を取り巻く政策が企業行動に及ぼす影響を理解できる			
領域科目群	経済統計	2・後	経済統計データを活用する場合、誰がどのような目的で、どのような調査方法で収集、整理されたものか、対象であるデータの性質を的確に理解し、経済分析に利用しなければならない。しかし、そのためにはまず中央値や平均値や標準偏差などを基にした基礎知識を持っていることが望まれる。その上で、経済データの分析方法とその結果の意味するところを理解することが重要である。統計学の内容を習得していることを前提として、電卓を使って経済統計に基づく分析方法・結果の解釈等を体得するための講義を行なう。	・統計的な見方、考え方を会得できるようになる。・統計を使った文章を見て、どこに問題があるか理解できるようになる。	○	◎	○
領域科目群	経済学史	2・後	経済を運営するには、様々なやり方があることを学ぶ。第一に考えるべきは、自由なのか、平等なのか、どんな社会を作り、どんな原理で経済が運営されれば、人々は幸福になれるのか。経済の根本思想について学ぶ。	代表的な経済思想の特徴を説明できる。	◎	○	○
領域科目群	公共経済学入門	2・後	本講義では、市場メカニズムの機能とその限界、政府の経済的役割などについて体系的に学ぶ。市場の機能と市場の失敗を踏まえたうえで、市場の失敗を是正するため、市場に対して政府がどのように介入すべきなのかを考察する。また、政府の経済活動が家計や企業の経済活動にどのような影響を与えるのか、具体的な事例を挙げて説明する。さらに、公共財や公共支出の評価、及び規制や課税の経済的効果などについて学ぶ。なお、プリント(UNIVERSAL PASSPORTで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①公共経済学の基礎理論やその応用方法を理解し、説明することができる。②現実の経済問題について自分なりの解決策を提示できる問題解決能力を身につける。③専門用語を正しく理解した上で、専門用語を実践的な分析に活用できる。	◎	○	
領域科目群	経営史	2・後	現代社会において重要な位置を占めている会社は、資本主義経済のもとで営利目的をもって生産活動を行う組織体とらえることができる。本講では、こうした会社が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。現代企業の代表的存在である株式会社が制度として成立・発展するプロセスをふりかえり、その歴史的意義について考える。	株式会社の特徴と歴史的な形成過程について説明することができる。	◎	○	

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	北九州の自然と環境	2・後	北九州市およびその周辺都市で形成される地域は、人口約200万人を抱える北九州都市圏である。また、北九州市には公害を克服した洞海湾があり、多様な自然がエコタウンや北九州空港などの産業とバランスよく配置された地域である。これらの特徴を学び、理解することで、地域の循環システムやそれに基づいた豊かな自然環境の重要性とそれらを保全することの大切さについて説明する。	1. 北九州の多様な自然について理解し、具体的にその説明ができる。2. 北九州市の環境に対する取り組みを理解し、具体的事例について説明ができる。3. 地域の自然環境とその保全の必要性を理解し、その手法について説明ができる。	◎	◎	○
領域科目群	公共マネジメント論	2・後	現代社会には、様々な社会問題、環境問題が顕在している。それらの問題を取り除く手法は行政依存から脱し、地域を構成する様々な主体が協働し、経営やまちづくりに新しい付加価値をつけたり、時代に相応しい価値観を創出したりするデザインが必要である。この授業では、地域資源や人材を資産と考え、その資産を活用した産業振興や安全安心なまちづくりなど様々な具体的な取組事例や政策推進の手法としての「公共」について学ぶとともに、経営やまちづくりに自らの関わり方を考える。	経営やまちづくりにおいて、経済性や合理性だけでなく、地域性や将来性を考慮し、理論的かつ実践的に把握・理解する。さらに、地域の現状を客観的に認識し、様々な課題に対し、地域の資産や人材を協働により解決しながら豊かな地域づくりに向けて取り組める人材に自らなることを目指す。特定の地域を設定し、その地域の課題を整理しながら成果を導く具体的な提案ができる。	○	◎	○
領域科目群	販売管理論	2・後	本講義は、経営学に視点から小売業について理解を深めることを目的とする。具体的にはチェーン小売組織、マーケティング、人材マネジメント等を取り上げる。本講義ではパワーポイント資料を使用するため、講義前日までに各自でプリントアウトして持参すること。	・小売業の実態を理解することができる ・経営学の基本的な理論を身につけることができる 上記の目標は、各種テスト及び課題レポートより総合的に評価する。	◎	○	○
領域科目群	ビジネスとICT	2・後	情報化社会の現代社会では、ある程度のPCに関する知識、Word Processing, Spread SheetsおよびPresentation Softwareに関するスキルが多く求められる。本授業の前半では、PCに関する基礎知識、MicrosoftのWord, ExcelおよびPowerPointの操作法やデータの互換使用方法について基礎的に学習する。後半では、各人が選んだテーマについて①データ収集、②データ処理、③レジュメ作成、④プレゼンテーションと審査の一連の実体験を通じて実践的スキルを身につける。	1.自分で選択したテーマに関して収集したデータからExcelを用いて独力でグラフ化することができる。 2.Wordを用いて図表入り文書を独力で作成することができる。 3.効果的なアニメーションを設定したプレゼンテーションファイルを独力で作成することができる。	○	◎	◎
領域科目群	ビジネスとICT	2・後	高度情報化社会における社会人が修得しておくべきICT(情報通信技術)活用技能に焦点をあて、講義、演習を通じて知識の理解と技術の修得を図る。 ・Webからの情報収集テクニックを修得するとともに、注意すべき事項を理解する。 ・インターネットの各種脅威を知り、情報資産を守るための対策について理解する。 ・Microsoft Wordの機能を活用した、見栄えのよい文書を作成方法を修得する。 ・Microsoft Excelの機能を活用した、各種表計算、データ処理方法を修得する。	・Webから効率的に情報収集できるとともに、注意すべき事項を理解する。 ・インターネットの脅威から情報資産を守るための対策を講じることができる。 ・Microsoft Windowsの基本操作をマスターする。 ・Microsoft Wordを使って各種文書を作成できる。 ・Microsoft Excelを使って、計算式や関数を組み合わせた表計算を行うことができる。 ・Microsoft Excelで作成した表やグラフをMicrosoft Wordに取り込むことができる。	◎	◎	○
領域科目群	ビジネスとICT	2・後	本講義では、コンピュータの基本操作、Webによる情報検索、セキュリティ、ファイルシステム、Word、Excel、PowerPointなどの基本操作方法と活用方法を学び、社会生活や学生生活に於ける研究活動等に利用していくための基礎知識を身につける。企業SEとしての経験を活かし、実務に近い演習を行う。	1.基本的なコンピュータの操作ができる。2.Webによる様々な情報検索と電子メールの活用ができる。3.Wordを用いて、オリジナルPOP広告が作成できる。4.Wordを用いて、簡単なビジネス文書が作成できる。5.Excelを用いて、簡単なデータ分析表・グラフが作成できる。6.PowerPointを用いて、効果的なプレゼンテーションができる。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	ビジネスのデザイン	2・後	本講義は、ビジネスプランを作成することを目的に授業を進めます。内容は、ビジネスアイデアの出し方、テーマ決定、ビジネスの概要、マーケティング計画、投資計画、資金調達計画、収支計画、販売計画、リスク管理、実行計画の各種計画が作成できるように授業を進めます。	1)新規性、独創性、市場性のあるビジネスアイデアが出せるようになる2)アイデアを絞り込むための評価基準がわかる3)各種計画が作成できるようになる4)世の中の動きや経済動向等に興味を持つようになる5)最終的にビジネスプランが作成できる	○	◎	◎
領域科目群	スポーツビジネス	2・後	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義では「スポーツビジネスの概要を理解し積極的にかかわろう!」というコンセプトで皆さんに関わっていただきます。特に2020年は世界最大のスポーツの祭典であり、ビッグビジネスでもある東京オリンピックが開催されました。本大会を振り返りつつ、1964年の大会と対比しながら時代の流れを経済的尺度を用いて掘込んでいきます。近い将来の就職活動においてスポーツビジネスに関わる業界に対応できるように進めていきます。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□情報を収集し比較検討することができる。	◎	◎	◎
領域科目群	スポーツコーチング	2・後	新たな時代のスポーツのコーチングは、単に専門的な技術を教えるだけにとどまらず、人間としての態度や行動などが幅広く求められています。本講義では、日本スポーツ少年団の指導者育成の講師、障害の有無にかかわらず子どもから高齢者のスポーツの指導に関わってきた経験を活かした授業を展開します。スポーツの意義や価値、社会に求められる背景と役割等を学びながら、スポーツコーチングの基本について理解を深めていきましょう。	①スポーツコーチングとは何か理解する。②コーチとしての態度や行動がどうあるべきかを理解する。③実際の現場でより良いコーチングができるようになる。	○	◎	◎
領域科目群	スポーツビジネス実践	2・後	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義は実践形式の授業であり、特に毎回の予習と授業後の振り返りを重視して研究能力と考察力を高めていきます。この点では研究会やワークショップ、ゼミナールと類似した特徴を持っていますが、専攻も得意分野も異なる人の前で自分の考えを述べたり、他者の考えを深く理解したりする経験を通じてコミュニケーション能力を高めていくことを目的としています。将来の職業選択の一つにスポーツビジネス関連が含まれるような授業内容を想定しています。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問したり、議論したりすることができる。□根拠を持って自分の意見を述べることができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめて発表することができる。□情報化社会に対応したプレゼンテーション資料を完成させることができる。□与えられたテーマを深掘りして独自の視点で学習を進めることができる。	◎	◎	○
領域科目群	ビジネス実務総論B	2・後	本講義ではビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネスにおける実務、そのマネジメント、ビジネスを取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで幅広く習得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に生かすことができる。・自ら課題を見つけ、率先して取り組むことができる。・自らライフデザインを形成し、その中でキャリアを育むことができる。	○	◎	◎
領域科目群	金融論	3・前	金融論の基礎を学ぶ。ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を下敷きにして、金融システム、参加主体の行動、金融規制や政策の仕組みを理解する。金融論を“お金について学ぶ”と認識することは間違いないではありませんが、表面的です。より踏み込むならば、“お金を融通する”ことの経済機能(お金の貸し借りがどのような経済的効果・効用があるのか?)を分析することが大切です。金融実務経験に基づき、現代マイクロファイナンスの現状を織り交ぜて講義する。	金融の基本機能のほか、企業や家計の金融資産選択などの金融行動の理論を習得できるようにする。また金融や金融商品、金融市場についての基本的な知識(金融リテラシー)の習得を目指す。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	西洋経済史	3・前	本講義の目的は、ヨーロッパ世界がいかなる経緯で形成されたかを知ることにある。現在に続くヨーロッパ世界の出発点は中世にあり、古典古代世界が没落した結果、それとは大きく異なるヨーロッパ世界が誕生した。本講義では、古代社会没落の要因を探るとともに、中世世界の形成過程及びその特質を考えたい。以上の内容を社会・経済的刺客から分析する。授業はテキストの内容・順序に従って進め、毎回、授業内容をまとめたレジュメを配付する。	(1)ヨーロッパ世界の形成過程を知ることによって、現在のヨーロッパ世界の特質を理解することができる。(2)日本とヨーロッパの歴史を比較することで、日本の社会・経済を相対的に見る視座を身につけることができる。(3)高校地歴・中学社会の教職を志望する場合、必要な専門知識を習得することができる。	◎		○
領域科目群	地域経済論	3・前	財務省・金融庁での経験を活かして、授業展開を行う。本講義では、各受講生が北九州市のスーパー地方公務員になった前提で、北九州経済の現状を分析し、人口減少や高齢独居者の増加など地域が衰退していく中での地域が抱えている課題について、地方創生の新たな視点や有効な方策づくりの観点から、大学周辺の地域振興策を考える。	地域振興やまちづくりに関する基本的な考え方や理論を理解することができる。他の先進地域との比較から、実践的な解決策を考えることができる。地域の現状と課題についての理解を深め、自ら考えることができるようになる。	◎	◎	◎
領域科目群	経済政策	3・前	経済政策は、経済社会の運営のための学問です。この授業では、「経済政策入門」で解説した経済政策の基礎的事項を踏まえて、マクロ経済政策・ミクロ経済政策の基礎理論と、具体的な政策課題として、行財政改革、南北問題、地球環境問題、を取り上げます。	①経済政策の基礎的内容をふまえて現実の政策課題を考えることができる。②現代の経済政策の課題と、自らの生活とのかかわりを考えることができる。	○	◎	○
領域科目群	環境経済学	3・前	本講義では環境問題について経済学の観点からどのようにアプローチできるのかを学ぶ。私たちの日常生活と環境問題がどのように関わっているのかを理解し、実際にどのような環境保全への取り組みを行っているのかについて、実際に環境検査企業にアドバイスした経験を踏まえ概観し、経済学視点で理解する。また、環境政策分析のための基礎理論や経済的手法の特徴と有効性を考察し、環境問題について消費者や企業の視点から取り上げる。なお、廃棄物政策や地球温暖化政策、及びエネルギー政策などにも焦点を当てる。	①環境問題と経済活動との関係や政策手段について学び、経済学的な思考力や分析手法を身につけることができる。②環境問題について高い関心を持ち、専門的な知識と理解を得ることができる。③現実の環境問題について習得した学習内容を発展・応用し、自分なりの解決策を提示することができる。	◎	○	○
領域科目群	公共経済学	3・前	現在、日本は少子高齢化や巨額の財政赤字といった様々な問題を抱えている。本講義では、市場経済において政府や地方自治体などの公共部門がどのような役割を持つのか、経済学的視点から学ぶ。政府のマクロ経済政策の課題とあり方について解説し、財政赤字問題や公的年金制度の現状などを取り上げる。また、それらを経済循環として表現する方法にも焦点を当てた上で、財政政策の効果や分析手法を学ぶ。なお、プリント(UNIVERSAL PASSPORTで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①公共経済学の理論的基礎を学び、日本経済の抱える問題に対して自分なりの考えを持つことができる。②公共政策の現状と課題について具体的に説明できる。③様々な政策課題に対して問題意識を持ち、その解決策を提案できる。	◎	○	
領域科目群	租税制度	3・前	当講義では、課税が個人や企業の選択行動にどのような影響を及ぼすのか、分配や社会的な厚生にどのような変化をもたらすかについても留意しながら、現在の日本の税制を具体的な制度内容に即して理解することに重きを置いて解説します。教科書を基本としつつ、必要に応じて配布する最新の制度内容や諸外国との比較に関する資料も利用しながら講義を進めます。	・わが国の租税制度の内容や課題に関する新聞記事を理解できる。・当該記事の論点を整理するのに必要な見識を習得している。	◎	○	

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	スポーツマネジメント	3・前	本講義では、文部科学省が推進する総合型地域スポーツクラブの設立・運営に、地方自治体担当者、同事業に取り組むNPO法人代表としての経験を活かした授業を展開します。授業では、今後の日本スポーツを支える「地域スポーツ」のマネジメントを中心に基本的なマネジメントの知識について学びます。また、地域スポーツの現場に携わる人々が直面した問題をわかりやすく解決していきます。他のビジネスとの共通点や相違点を見極めつつ、応用力も身につけていきましょう。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□自分の考えを持ち、人前で発表できる。□他者の考えに興味を持って真剣に聞くことができる。□重要事項をメモに残す習慣を身に付けて実践することができる。□情報化社会に対応できる基礎力を高める。	○	◎	◎
領域科目群	スポーツ施設管理	3・前	本講義では、公益社団法人日本体育施設協会認定の体育施設管理士の資格取得を目指した講義を行う。内容は、体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識を習得することで、体育施設管理者の資質向上とともに、我が国の体育・スポーツ振興に寄与することを目的とする。	①体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識が習得できる。②「体育施設管理士」の資格を取得する。	○	○	◎
領域科目群	近代日本経済史	3・前	この授業では、主として幕末期から昭和初期における日本経済の歴史的展開を対象として講義します。日本は幕末に開港したことにより、世界資本主義の一環に加わるようになりました。そしてほどなく明治維新を迎え、欧米列強の制度や技術を取り入れ、それまで在来的な産業が中心だった産業構造の近代化を図りました。現代の情報社会は、近代の産業発展をさらに加速させたものとして位置付けることができます。この講義ではそうした見通しのもと、現代社会経済の前提としての近代日本経済の発展を学びます。	近代日本経済史を学ぶことにより、欧米列強中心の世界経済、国際政治において、日本が自国の力で経済発展を成し遂げたことを説明できます。それにより、外国で活動する時、あるいは外国人に日本を説明する際に必要な基本的知識を付けることができます。また、現代における情報社会の前提としての、財やサービスの世界的な広がりや端緒を、日本を事例に知ることができます。これにより、私たちが人類史においてどの地点にいるのかを探ることができます。	◎	◎	○
領域科目群	東洋経済史	3・前	この講義では、16世紀から20世紀前半の東アジア、主に中国を中心に社会経済の歴史を解説します。特に、16世紀以降のアジア経済、特に東アジアの経済的変容過程について説明し、アジア経済を支える仕組みがどのように形成され、また、どのように変容し、アジア固有の経済発展を可能にしたのかを検討していく。	・アジア世界がどのようにして形成されたのかを理解することができる。・本講義の理解及び専門的な知識を通じて、現代におけるアジア経済発展の要因、アジア経済における問題点を理解することができる。・経済史の視点から様々な問題にアプローチする能力を身につけることができる。	◎	○	○
領域科目群	行政法(作用法・組織法)	3・前	行政に関する知識は、私たちが社会生活を営み仕事をしていくうえで必ず必要になるものです。本講義では、行政がどのような活動をするのか、私たちに對してどのような権限行使をするのかについて学ぶ。具体的には行政行為、行政立法、行政指導、行政契約、行政計画を中心に学ぶ。	基本的な論点14個について、その論点を理解し、問題の所在を的確に把握し説明できるようになる。	○	◎	◎
領域科目群	労働と法	3・前	労働法に関する知識は、社会人として働いていくうえで必要なものです。特に現在のように労働環境が大きく揺れ動き、働き方も契約形態も待遇も多様なものとなっている状況では、弱者たる労働者を最終的に守るものは法である。現在の労働者にとって起こりうる様々な問題にいかに対処すべきかについて具体例を挙げつつ解説していきたい。	基本的な論点14個について、その論点を理解し、問題の所在を的確に把握し、その問題に対する自分の意見をまとめる力を身につける。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	環境科学	3・前	環境とは何か？地球の循環システムはどのようなメカニズムで機能しているか？様々な学問分野がどのような視点でアプローチしようとしているかについて説明する。地球の循環システムとしての環境と人間や社会との関わりを中心に理解できることを目指し、人間社会に関する基礎的事項である生活圏・産業圏の環境、さらにこれらに関連する法規、自然災害が人間社会に及ぼすリスクについて学ぶ。	1. 環境と人間社会との関わりについて理解し、説明できる。2. 生活圏・産業圏を起源とする環境要因と関連する法規について説明できる。3. 環境に関連する社会的事象について説明できる。	◎	◎	○
領域科目群	民法(親族・相続)	3・前	この講義では、民法のうち夫婦・親子・相続等家族関係を規律する「親族・相続」について、基本的事項および重要判例を中心に授業を行います。私たちの家族に関する出来事が、民法においてどのように規定されているかを具体的な事例を通して、また、税理士としての実務経験を活かして実践的視点からも解説を行います。なお、当該科目は、公務員試験等において出題されることが多い科目です。したがって、公務員(行政職等)を目指す学生は履修をおすすめします。	本講義は、民法(親族・相続)に関連する基本的知識の修得と今日の課題に対する考察力を養うことを目標とします。具体的には次の通りです。① 民法(親族・相続)の基本的仕組みを理解できる。② 民法(親族・相続)の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な民法(親族・相続)の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	◎	○
領域科目群	地方自治体の財政	3・後	わが国の地方行財政制度は、戦前戦後を通じて中央集権の度合いが大きく、地方自治体の自由になる部分は少なかったが、2000年4月から地方分権一括法が施行されて国と地方の関係が大改革されてから20年が経過した。本講義では、国と地方の財政関係、地方財政のしくみについて説明する。	* 地方財政のしくみを説明できる。* 地方財政に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
領域科目群	日本経営史	3・前	現代の日本企業は大きな変動期を迎えている。今後の日本経済や企業経営を考えると、歴史を振り返ってみることが今ほど必要な時期はないといえよう。本講義では、日本における企業経営の形成と発展の過程を、資本主義経済とのかかわりで検討する。その際、経営環境としての社会経済の状況をふまえつつ、日本的な企業経営の形成を歴史的な視点から考察することにしたい。ここでは、近世から近代の時期に焦点をあてる。	日本における企業(株式会社)の歴史的な形成過程について説明することができる。	◎	○	
領域科目群	管理会計論	3・後	現代の管理会計の技法と実務について理解する。前半では、管理会計の必要性および管理会計の技法について説明する。これによって、管理会計に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、管理会計の実務について説明する。これによって、管理会計に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 管理会計の必要性について、説明することができる。2. 管理会計のフレームワークについて、具体的に述べることができる。3. 管理会計の技法について、列挙・使用することができる。4. 管理会計の技法について、経営戦略の策定に関係づけることができる。5. 管理会計の技法について、マネジメント・コントロールに関係づけることができる。	◎	◎	◎
領域科目群	流通管理論	3・前	私たちが商品を購入するまでには、様々なモノや人が関わり、色々な段階での売買取引を経て流通し、私たちの手元に届いています。本講義では、流通政策の概念や形成メカニズムについての基礎的な説明をしたうえで、日本における流通政策の特徴とその意義を中心に学び、国による流通政策の違いとその背景を明確に理解することを目指します。	・流通管理、流通政策に関する重要な用語と内容について理解することができる。・授業で学ぶ流通管理の内容が実際ではどのように行われているのかを理解することができる。	◎		○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	ビジネスコーチング	3・前	相手の能力が開花できるよう、人を育てるコミュニケーションであるコーチングを学ぶ。コーチングの基本である、傾聴・好奇心・直感・自己管理・行動と学習を身につける。将来、教育者、指導者、経営者を目指す人向けの講義です。	コーチングが日常の会話の中でも実践できる。コーチとしてどのような態度、対話をすればよいか判断できる。	◎	◎	○
領域科目群	経営者論	3・後	企業経営をよりよく理解するために、実際に企業を経営している人の話を聞くことはきわめて有効である。本講義では、第一線で活躍されている経営者の方が講師となる。その内容は、どのような経緯で経営者となったのか(自分史)、経営理念、経営者として必要なことなどである。本講は、土曜日の2～4時限に集中講義形式で実施する。	1. 日本における企業経営の最前線を知ることができる。 2. 経営者としてどのような素養が必要であるかを知ることができる。 3. いわゆる「経営力」とは何かについて理解することができる。		◎	○
領域科目群	経営戦略論	3・前	本講義では、「経営戦略」を企業組織の「長期的」な存続と成長を目的とした企業独自の「選択」ととらえ、優れた戦略が備えるべき基本論理について解説していきます。企業そのもの(全体レベル)の存続と成長の問題を扱う「全社戦略」と個別事業レベルでライバル(競合他社)との競争への対処を扱う「競争戦略」について、その基本論理(諸学説など)を解説するとともに、現実の企業行動事例を豊富に交えながら、現代(日本)企業の盛衰を大きく左右する経営戦略のあり方について考えていきます。	・経営戦略領域における基本学説の目的と内容、それぞれの長所/短所について説明できる。・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動の諸事例について、その理由・ポイントを説明することができる。・経営学検定試験(初級:大学生修得レベル)における「経営戦略」分野の必要知識のうち 70%を習得することができる。	◎	○	
領域科目群	マーケティング論	3・前	商品を作るだけではなく、消費者に買ってもらうなければ意味がありません。マーケティングとは、簡単に説明すると商品を売るための作戦・仕組みづくりを考えることです。本講義では、マーケティングにおける基礎概念を中心に説明し、マーケティングの意義、代表的なマーケティング戦略手法について事例を通して学んでいきます。	・マーケティングに関する重要な用語と内容を理解することができる。・理論と事例の両面からマーケティング活動の内容や現状、さらには諸問題を包括的に学ぶことで今日のビジネス・パーソンに求められる知識を習得することができる。	◎	◎	○
領域科目群	経営組織論	3・後	本講義では、現代社会を支える重要な基盤としての(企業)「組織」について、その基本論理(主要学説)について解説するとともに、現代(日本)企業が直面する組織の諸問題について考えていきます。具体的な内容として、モチベーションとリーダーシップを基本とする「ミクロ的組織課題」から、多様な組織構造のデザインとその進化について考える「マクロ的組織課題」まで幅広く取り上げて解説していきます。また、学習成果を活かす場としてのチーム演習型の授業回(所定のテーマに関するチーム討議)等の機会も設定しています。	・習得した組織理論(モチベーション、リーダーシップ、組織デザイン等)を用いて身近な問題解決に貢献したり、新聞・雑誌等に掲載された企業事例についてその理由・ポイントを説明できるようになる。・経営学検定試験(大学生修得レベル)の「経営組織」領域に関する知識の70%程度を習得することができる。・グループ・ディスカッションなどの方法を学び、それを効果的に実践することができる。	◎	○	○
領域科目群	スポーツビジネス インターンシップ	3・前	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。演習形式でスポーツビジネスの分野における実務能力を高めていきます。特に本学ならではの環境とネットワークを利用してJ3の最下位からJ1年でJ2に返り咲くという奇跡の復活劇を演出したギラヴァンツ北九州とコラボレートして学んでいきます。特に球団運営に関わるノウハウについて研修プログラムを体験することで「自分が」球団の一員として責任ある業務を果たすだけの能力を持っているかどうか判断できます。積極的に参加していきましょう。	□報告・連絡・相談・確認・準備・指示等のビジネス実務能力を高めることができる。□状況を判断しながら質問したり、議論したりすることができる。□根拠を持って自分の意見を述べることができる。□業務に対して遅滞なく適切に対処することができる。□イベントを運営する一員として責任を持って業務を遂行することができる。□イベントの担当業務報告書をまとめて後輩にお手本を示すことができる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	サービス実務総論	3・前	サービス業に従事する人材として求められる資質、知識、待遇、接客マナーなどを理解し実践的に活用できるおもてなし能力を育成する。	・サービススタッフの心構えが理解できる・サービススタッフの専門知識が理解できる・サービススタッフの言葉遣いや立ち居振る舞いを学び、実践できる	○	◎	◎
領域科目群	ビジネス実務演習A	3・前	本講義ではビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネスにおける実務、そのマネジメント、ビジネスを取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで幅広く習得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしてふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネスパーソンとしての仕事の仕方や役割を理解する。・ビジネスパーソンとしての話し方や聞き方を実践できる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎
領域科目群	ビジネス法務	3・後	現代はビジネスにおいて、あらゆる場面で法律が関わっており、法律を守りそれに従って行動することが求められています。本講義では、皆さんが社会に出て仕事に携わる場合に最低限必要とされる基本的な法的知識を身につけてもらい、企業やそこに従事する構成員としての従業員が守らなければならない法律の基本を習得していきます。基本的にテキストに沿って講義を進めていきます。	①職場で必要となる実践的な法律知識を説明できる。②ビジネスの実務と各法律の連携を説明できる。③経営や業務に必要な問題意識をもち実践できる。④法的トラブルを未然に回避する基礎能力を養うことができる。	◎	◎	○
領域科目群	国際金融論	3・後	グローバル化した今日の世界経済では、「モノ」「ヒト」「カネ」「情報」が、国境を越えて行き来している。その中でも、「カネ」すなわち資金の国際的な移動は、世界経済に大きな影響力を持っている。本講義の目的は、そうした国際金融取引の基礎を学ぶことで、国際化に対応できる素養を身につけることである。	1) ニュースや新聞に登場する国際金融に関する報道について、内容を理解できる。2) 国際金融取引の基本的な枠組みについて、説明することができる。3) 国際的なコミュニケーション能力を培い、社会に寄与できる。	◎	○	◎
領域科目群	人的資源管理論	3・後	人的資源管理は、経営資源である「ヒト」を対象にし、彼ら・彼女らが持つ能力を最大限に引き出すことで企業の利潤拡大に貢献する。本講義では基本的な理論に加え、新聞等の記事及び研究動向を取り上げることで、理論と実践を統合した複合的視点を構築することを目指す。なお、講義はパワーポイントを使用するため、講義前日までにプリントアウトをすること。	・人的資源管理の用語の意味を理解または説明できる・管理の歴史について理解できる・日本企業の人事制度について理解または説明できる・現代社会における働き方の変容を理解または説明できる上記の目標は各種テスト及び課題レポートより評価する。告知はシラバスオンラインで行う。	◎	○	○
領域科目群	都市経済学	3・後	ミクロ経済学の基本的な概念を復修しつつ、その知識を用いながら、私たちの社会に存在する「都市」がなぜ存在し、どのように作り出され、そこではどんな問題が起こっているのかについて専門的に学んでいく講義である。	都市経済学の意義でもある「都市(あるいはその地域)だから生じる経済現象」について論理的に説明でき、そこで得た知識をもとに皆さんが主体的に「あるべき街の理想像」や「様々な都市で発生する経済問題に対する解決策」について論じることができるようになることを本講義の授業到達目標とする。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	社会保障論	3・後	第二次大戦後、社会保障の充実が先進諸国の経済政策の目標として大きく掲げられるようになり、“福祉国家”が実現したが、その反面、財政規模は拡大し、大きな政府の弊害と社会保障のネガティブな経済効果が問題視されるようになり、現在では、社会保障の見直しが論じられるようになった。本講義では、社会保障の創成から現代に至る流れを概観したうえで、わが国の社会保障制度の現状と課題について、財政学の観点から説明する。	* 社会保障のしくみを説明できる。* 社会保障に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
領域科目群	国際経済学	3・前	授業の目的および授業内容を、学生を主体にして何を修得するための授業であるかを理解できるように、説明します。2国2財1生産要素モデルを用いて、自由貿易が望ましいことを説明します。また、自由貿易が実現していない時には、その代替として直接投資が見られます。どのような国に多くの直接投資が行われるのかを説明します。	・国際経済関連のニュースに関心を持つことができるようになる。	◎	○	
領域科目群	税務会計論	3・後	現代の税務会計の技法と実務について理解する。前半では、税務会計の必要性および所得課税の計算について説明する。これによって、税務会計に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、法人課税および消費課税の計算について説明する。これによって、税務会計に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 税務会計の必要性について、説明することができる。2. 税務会計のフレームワークについて、具体的に述べることができる。3. 税務会計の技法について、列挙・使用することができる。4. 税務会計の技法について、税制改正の背景に関係づけることができる。5. 税務会計の技法について、タックス・プランニングに関係づけることができる。	◎	◎	◎
領域科目群	経営管理論	3・後	経営学における経営資源は、ヒト(人的資源)、モノ(物的資源)、カネ(貨幣的資源)の3要素があります。本講義では、経営管理の基礎と経営資源の中のカネ(貨幣的資源)と経営について、企業経営における消費税との関わりを中心に実務上の課題と解決策を学びます。	・経営管理や税法に関する基礎知識を身につけ、ケースにより最適な税務経営戦略を選択することができる。・講義で学んだ経営管理や税務経営戦略の基礎的な用語の意味を理解し、自分の言葉で説明することができる。	◎	◎	○
領域科目群	財務管理論	3・前	現代の財務管理の技法と実務について理解する。前半では、財務管理の必要性および財務的意思決定について説明する。これによって、財務管理に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、資本コストおよび資本資産価格モデルについて説明する。これによって、財務管理に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 財務管理の必要性について、説明することができる。2. 財務管理のフレームワークについて、具体的に述べることができる。3. 財務管理の技法について、列挙・使用することができる。4. 財務管理の技法について、資本調達の現状に関係づけることができる。5. 財務管理の技法について、ファイナンシャル・リスクに関係づけることができる。	◎	◎	◎
領域科目群	地域とスポーツ	3・後	福岡県内のスポーツビジネスのあらゆるジャンルのテーマを挙げ、その中からそれを構成する組織や企画意図などを推察し、実際に取材などで検証し、最終的に業務企画書などにまとめる。スポーツビジネスの仕組みなどを研究する。社会人基礎力育成グランプリ・大学発ベンチャービジネスグランプリなど学外イベントへの出品なども検討中。	業務企画書の作成方法、取材方法などを会得することができる。個人(もしくはチーム)で情報取集した後、企画の主旨、内容を伝えられることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
領域科目群	スポーツと法	3・後	スポーツに関連する事故・紛争にはどのようなものがあるのでしょうか。また、それらを回避するにはどのような対策や解決方法があるのでしょうか。地方公務員としてスポーツ施設の建設や管理、NPO法人代表としてスポーツ施設の管理運営に関わってきた経験を活かした授業を展開します。また、スポーツに関わる者が直面しうる人権問題などを、具体的事例を参照しながら解説を加えて、スポーツと法のかかわりを整理しながら理解を深めます。	授業で取り扱う基本的な事例・論点について、その論点を理解し、問題の所在を的確に把握し、その問題に対する自分の意見をまとめることができるようになる。	○	◎	○
領域科目群	企業と社会	3・後	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界や学会では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念と用語を講義・解説するとともに、産業界の最新トレンドを解説していきます。	1.経営体や経営学の全体像がわかる。2.経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。3.産業界のトレンドが理解できる。	◎	◎	◎
領域科目群	産業組織論	3・後	産業組織論は、産業全体としての成果を、次の視点から分析するものです。(1)企業の行動(2)市場構造(3)企業組織(4)政策それぞれの回が以上4つのどれにあたるのか意識しながら学ぶことで、経済を分析する視点が身についていくはず。入門とは違い、主に数式による分析で進めていきます。	1.企業の独占や複占が生じる環境とその帰結を理解できる 2. 企業を、人が集まる組織として理解できる 3.様々な経済状況をゲームとして表現することができる 4.企業を取り巻く政策が企業行動に及ぼす影響を理解できる			
領域科目群	交通論	3・前	・公務員、交通事業者、NPOの職員として交通に必要となる知識を習得し、専門家養成を目指す。・交通が抱えている問題を認識し、人口減少に向けた持続可能な移動手段構築などの各種問題について、具体例を挙げつつ説明する。	・人口減少に向けた持続可能な交通に必要となる基本的な知識を習得し、交通の専門家として問題解決の技術手法を身につけることができる。・人口減少に対して交通問題を解決するために、交通に関連する知識を用いて、論述できるようになる。	○	◎	
領域科目群	ゲーム理論	3・後	ゲーム理論は、数学に基づいた学問であることに留意してください。授業は簡単な説明の後、あてられた人が練習問題を解くという形で進めていく予定です。ゲームは非協力ゲームにおける同時手番と逐次手番について練習問題を行なう予定であることを理解した上で参加してください。	・同時手番のゲームを解くことが出来るようになる。・手番のゲームを解くことが出来るようになる。・ゲームを構築できるようになる。	◎	○	
領域科目群	会計監査論	3・後	現代の会計監査の制度と理論について理解する。前半では、会計監査の必要性および会計監査の制度について説明する。これによって、会計監査に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、監査基準の体系、監査手続、監査報告書の構成について説明する。これによって会計監査に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 会計監査の必要性について、説明することができる。2. 会計監査の制度について、具体的に述べることができる。3. 監査基準の体系について、説明することができる。4. 監査手続について、監査要点と関係づけることができる。5. 監査報告書について、作成・解釈することができる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
領域科目群	医療・福祉マネジメント	3・後	社会福祉の各分野においては毎年のように大きな制度改革が続いている。改革動向における大きな特徴の一つとして、自立支援の観点が強調されていることが挙げられる。この教科では「自立」或いは「自立支援」とは何か、また、自立支援と社会福祉はどう関わるのかといった点について学ぶ。また、同時に医療の分野との連携や関係性について学ぶことで、医療と福祉をマネジメントすることが、人生を円滑にし、かつ財源確保が合理的になる方法であることを学ぶ。	医療保険、年金保険、介護保険を学ぶことで、社会人として社会に目を向けた生き方、日本社会の持つ課題を知ることができる。また福祉の各分野を学ぶことで、日本社会の実情や社会の動きを知ること、社会貢献することの意義を知ることができる。	◎	◎	◎
領域科目群	行政法(救済法)	3・後	行政に関する知識は、私たちが社会生活を営み仕事をしていくうえで必ず必要になるものです。本講義では、違法・不当な行政活動があった場合、私たちはどうしたら良いのか、不服申し立て手段、取消を求めるにはどうしたらよいか、さらには、国家賠償、損害補償制度について学ぶ。	基本的な論点14個について、その論点を理解し、問題の所在を的確に把握し説明できるようになる。	○	◎	◎
領域科目群	生産管理論	3・後	1. 日本が開発した科学技術とそれを基盤とした産業について学ぶ。2. 日本の科学技術と産業の歴史を理解する。3. 日本の科学技術と産業が世界に及ぼした影響について理解する。4. 日本のものづくりを生産管理の理論と実践の観点から学ぶ。	1. 産業技術の基礎が理解できる。2. 日本の基幹産業のひとつである自動車産業の歴史と現状が理解できる。3. 持続可能な社会が求める産業技術の在り方を理解できる。4. 生産管理の基本的知見を獲得する。	○	○	◎
領域科目群	ビジネス実務演習B	3・後	本講義ではビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネスにおける実務、そのマネジメント、ビジネスを取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで幅広く習得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしてふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネスパーソンとしての仕事の仕方や役割を理解する。・ビジネスパーソンとしての話し方や聞き方を実践できる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎
領域科目群	サービス実務演習	3・後	サービス業に従事する人材として求められる資質、知識、接遇、接客マナーなどを理解し実践的に活用できるおもてなし能力を育成する。プリントやDVDなどを使ってサービス業界の理解を進め、さらに演習を交えることで体験型の修得をも目指す。	・サービススタッフの心構えを理解できる・サービススタッフの専門知識を理解できる・サービススタッフの言葉遣いや立ち居振る舞いを理解し、実践できる・ビジネス電話検定A級に合格できる・サービス接客検定準1級に合格できる	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップA 【ステップアップ方式・企業志望者対象】	1・後 期中	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義では「スポーツビジネスの分野における課題を解決しよう!」というコンセプトで皆さんに関わっていただきます。前年(2019年)にはギリヴァンツ北九州とコラボレートして行っているシニア健康教室に参加して「高齢者向けの運動実践マニュアル」の作成を行いました。本年度は急速に伸びてきているパーソナルトレーニングジムにおいて活用できる研修プログラムとテキストの作成についてチャレンジしていただきます。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□業務の進捗についての情報をチームで随時共有できる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	ワークショップA 【ステップアップ方式・公務員等志望者対象】	1・後期中	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を目指す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、様々な研修等を通して知識及び技術を身に付け、ワークショップBにおいて取り組むべき真の社会貢献を考えていきます。	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちにできる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身につけることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップA 【セパレート方式】	1・後期中	本授業は、1年次という早い時期からイベントの企画やそれら実際の運営に携わるなど社会体験を増やすために用意された能動的学修(アクティブ・ラーニング)のひとつである。地域連携・地域貢献をテーマとして、用意されたプロジェクトから複数選択し、課題解決の意識を高める機会を提供する。問題基盤型学習やサービスマスターリングなどを取り入れて、前に踏み出す力の涵養に力点を置いておこなっていく。	1. 地域住民の生活課題について、具体的に説明することができる。2. 地域連携・地域貢献活動の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、推論できる。3. 社会体験・地域イベントの効果について、地域活性化と関係づけることができる。4. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。5. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップA 【ステップアップ方式・教員志望者対象】	1・後期中	教員としての経験を活かし、授業を展開する。本授業は講義および実習形式で実施する。教師になるということについてをいまいちど問いなおし、学外実習(スクールヘルパー)を行い、自らの考えを深めることを目的とする。学外実習は北九州市立小中学校でのスクールヘルパーを予定している。学外実習前には、事前学習を行い、理解を深める。スクールヘルパー経験者(先輩)の話や聞き、実習計画を立て実習先をみずから選定する。実習後は実習の内容および成果をまとめて、報告し振り返る。	1 教師になるということについて考えを深めることができる。2 経験に基づいて考えを構築し表現することができる。3 表現力を高めることができる。4 コミュニケーション能力・調整能力を高めることができる。5 課題を発見し、解決策を考えることができる。	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップB 【ステップアップ方式・教員志望者対象】	2・前期集中	この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての基礎的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。この双方を通して、2年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採用するので、1年次のワークショップAを修得せずして2年次のワークショップBは履修できない。教員としての経験を活かし、授業を展開する。必修科目ではないが、教職を希望する気持ちのある者はぜひ、履修してほしい。	1 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。2 なぜ、教職に就こうとしているのか、説明ができる。3 教職に携わる者の心構えについて考えることができる。4 教員としてのベースとは何かについて考えることができる。5 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)が理解できる。6 学校現場体験で教職についての魅力を自覚できる。	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップB 【セパレート方式】	2・前期集中	この講義は社会体験学習であり、本講義を通じ地域活性化への理解を深めるとともにチームとしてイベントに参加しながら、効果的な活動方法を考え、提案する。また、まちづくりイベントおよび地域活性化イベントに参加することにより、経済・経営活動である企画、製品開発流通、販売などの実践的な活動を学び、経済・経営学の理論と実践に関する知識やスキルを高めるものである。会社実務経験に基づき、プロジェクト運営を指導する。	1. 経済・経営活動の実践的活動がわかる。2. 経済・経営学の主要論点ができる。3. チーム活動が理解できる・積極的に考え、行動に結びつけることができる。4. 地域活性化活動が理解できる。	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップB 【ステップアップ方式・公務員等志望者対象】	2・前期集中	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を目指す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、ワークショップAにおいて学んだ知識をもとに、ボランティア活動等を実際に行い、社会貢献マインドを養ってください。	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちにできる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身につけることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	ワークショップB 【ステップアップ方式・企業志望者対象】	2・前期集中	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義では「スポーツビジネスの分野における課題を解決しよう！」というコンセプトで皆さんに関わっていただきます。ただし、ビジネスの現場における課題は市場の状況や将来予測に応じて変化しますので、それに耐える柔軟かつ思考や強靱な体力それに感情のコントロール能力が求められるでしょう。本授業ではこうした点に留意してメンタルとフィジカルを融合させた考え(ボジトレ®)について学び、それを教材化することに取り組んでいきます。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝えるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□業務の進捗についての情報をチームで随時共有できる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップC 【ステップアップ方式・教員志望者対象】	3・前期集中	教員としての経験を活かし、授業を展開する。この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての実践的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。この双方を通して、3年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採るので、2年次のワークショップBを修得せずして3年次のワークショップCは履修できない。実習時間は学年が上がるにつれて多くなる。	1 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。2 なぜ、教職に就こうとしているのか、はっきりと説明ができる。3 教職に携わる者の心構えについていろいろな角度から考えることができる。4 教員としてのベース(基礎・基本)とは何かについて深く考えることができる。5 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)がよく理解できる。6 学校現場体験で教職についての魅力を自覚できる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップC 【セバレート方式】	3・前期集中	この講義は社会体験学習であり、本講義を通じ地域活性化への理解を深めるとともにチームとしてイベントに参加しながら、効果的な活動方法を考え、提案する。また、まちづくりイベントおよび地域活性化イベントに参加することにより、経済・経営活動である企画、製品開発流通、販売などの実践的な活動を学び、経済・経営学の理論と実践に関する知識やスキルを高めるものである。WS-Cでは、ワークショップ内でのサブプロジェクトの運営について積極的にかかわる。会社実務経験に基づき、プロジェクト運営を指導する。	1.経済・経営活動の実践的活動がわかる。2.経済・経営学の主要論点がわかる。3.チーム活動が理解できる・積極的に考え、行動に結びつけることができる。4.地域活性化活動が理解できる。	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップC 【ステップアップ方式・公務員等志望者対象】	3・前期集中	警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を志す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があるため、ワークショップA、Bにおいて学んできました。身に付けた社会貢献性をもって自治体、警察、消防等のインターンシップに参加し、さらに職業意識を高めていきましょう。また、引き続き社会貢献活動も行います。	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちにできる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップC 【ステップアップ方式・企業志望者対象】	3・後	ワークショップは経験を通じた学習であり、受け身で授業を聞くのではなく、自ら考え能動的に動く形の授業です。ワークショップCでは、ワークショップA、Bで行った活動を基に、自ら社会で起きている問題や課題に対して、どのように解決していくのかを考え、実践を通じて学習して行きます。地域活性化の課題、スポーツを通じた課題解決など、学生が何らかの役割ができないのかをテーマとして考えます。ステップアップ方式では、A(1年)→B(2年)の履修者のみCを履修できます。	①ワークショップとは何かを理解できる②地域の問題に関心をもち、それを解決する方法について考えることができる③相手の意見を聞くこと、自分の意見を主張することができる④チームで課題に取り組むことの重要性を理解し、それに沿って行動できる⑤自ら考えた課題に向けて、行動を取ることができる	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD 【ステップアップ方式・企業志望者対象】	4・後	ワークショップは経験を通じた学習であり、受け身で授業を聞くのではなく、自ら考え能動的に動く形の授業です。ワークショップDでは、ワークショップCまでに行った活動を基に、自ら社会で起きている問題や課題に対して、どのように解決していくのかを考え、実践を通じて学習して行きます。地域活性化への取り組み、スポーツを通じた課題解決など、学生が何らかの役割ができないのかをテーマとして考えます。ステップアップ方式では、A(1年)→B(2年)→C(3年)の履修者のみDを履修できます。	①ワークショップとは何かを理解できる②地域の問題に関心をもち、それを解決する方法について考えることができる③相手の意見を聞くこと、自分の意見を主張することができる④チームで課題に取り組むことの重要性を理解し、それに沿って行動できる⑤自ら考えた課題に向けて、行動を取ることができる	○	○	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
実践科目群	ワークショップD【ステップアップ方式・教員志望者対象】	4・前期集中	教員としての経験を活かした授業展開とし、この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての基礎的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。この双方を通して、4年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採用するので、3年次のワークショップCを修得せずして4年次のワークショップDは履修できない。必修科目ではないが、教職を希望する気持ちのある者はぜひ履修することを勧める。	1 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。2 なぜ、教職に就こうとしているのか、説明ができる。3 教職に携わる者の心構えについて考えることができる。4 教員としてのベースとは何かについて考えることができる。5 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)が理解できる。6 学校現場体験で教職についての魅力を自覚できる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップD【ステップアップ方式・公務員等志望者対象】	4・前期集中	ワークショップA～Cにおいて、社会貢献活動に取り組んできましたが、本科目では取り組んできましたが、本科目では取り組んできた社会貢献活動について概念化していきます。まず、これまでの活動を分析し、課題や今後の可能性、特徴を整理します。次に、この授業を通して果たしたい役割を明確化し、PDCAを回しながら最後の社会後見活動に取り組んでいきます。概念化したものについては、学生研究報告会における発表や、卒論、ゼミ論につなげることを目標とします。	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【セバレート方式】	4・前期	この講義は社会体験学習として、地域活性化への理解を深めてもらいます。チームとして、まちづくりイベントやスポーツイベントに参加しながら、イベントを通じた実社会での活動を体験するとともに、大学で学んだ経済、経営学の実践の場として知識やスキルを身につけてもらいます。	1. 経済・経営活動の実践的活動がわかる。2. 経済・経営学の主要論点が見える。3. チーム活動が理解できる。4. 地域活性化活動が理解できる。5. スポーツを通じたまちづくりについて考え、提案を行うことができる。	○	○	◎
実践科目群	研究会A【公務員試験】	1・前期前半	大学生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で非常に有益なものとなります。本講義では各人のやる気を積極的に支援します。この講義は公務員試験合格を目指す学生を対象とした基礎力向上講座です。公務員試験の重要科目数の推理を中心に問題演習をしていきます。集中的に学習するため、木曜日3.4限連続で実施します。(前期前半に集中)	1. 能力向上に挑戦する意識を高めること。2. 能力向上に挑戦できること。3. 能力向上に挑戦し続ける方法を身につけること。4. 判断推理の基本問題を解けるようになること。		◎	◎
実践科目群	研究会A【社会人基礎講座】	1・前期前半	本講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力をトレーニングします。これらを1年次から意識することで、3年次に始まる就職活動の成功にむけての効果的な準備となります。なお本プログラムに集中的に取り組むため、木曜日3時限・4時限の2コマ連続で実施していきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものが分かるようになる2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる		◎	◎
実践科目群	研究会A【FP技能検定3級①】	1・前期前半	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FPの実務経験を活かし、ファイナンシャルプランに必要な資金計画、年金を中心とした社会保険、生命保険や損害保険の基礎知識、実践的な知識と試験対策両面を意図した講義を実施する。【注意】原則、FP研究会AとB続けて受講推奨。A、Bの後、後期でC、Dの受講。A～Dすべて受講することでFP全科目を網羅できる。	ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得、及びファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	研究会A【スポーツビジネス】	1・前期前半	●スポーツビジネスを中心に、イベント・番組制作など全てのジャンルに対応できる企画の立て方、限定された課題の中で、0からの発想によりアイデアを構築し、企画書を完成させるその企画書を多くの人々に理解してもらうためのプレゼン能力を養う。●情報リテラシー世の中に数多ある情報をいかに自分のものにするか？見極める力を養う。自己目標とそれを達成するための戦略と行動計画。	与えられた課題の中で、自由な発想と、ニーズに応えられる企画を構築できる。個人(もしくはチーム)で創造した企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。段取りを見極めて企画をチームで作り上げることができる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会A【簿記3級①】	1・前期前半	大学での学習の結果を「簿記3級資格取得」で表現できれば、本人が自信を増すことになり就職活動においてもアピールできることとなる。「簿記」を初めて学ぶ学生が興味を持てるように、簿記検定の基礎となる仕訳と転記を学びます。簿記検定に必要な仕訳及び総勘定元帳の知識を身につけることが出来ます。	1. 初めて学ぶ「簿記」に興味を持ち、基本的な知識を修得することができる。2. 自らの能力の向上させるために、予復修の課題をこなす。3. 社会人としての必要な会計の基礎を理解することができる。4. 学習を通じて、継続力・忍耐力を身につける。	◎	○	○
実践科目群	研究会B【スポーツビジネス】	1・前期後半	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義では「スポーツビジネスの分野における課題を解決しよう！」というコンセプトで皆さんに関わっていただきます。前年(2019年)にはギラヴァンツ北九州とコラボレートして行っているシニア健康教室に参加して「高齢者向けの運動実践マニュアル」の作成を行いました。本年度は急速に伸びてきているパーソナルトレーニングジムにおいて活用できる指導者養成テキストの作成についてチャレンジしていただきます。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝えるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□収集した情報を知的財産権を考慮した上で活用することができる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会B【FP技能検定3級②】	1・前期後半	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FPの実務経験を活かし、研究会Aの内容を踏まえ、新たな資産運用(金融)とタックスプランニングについて授業を実施する。資産運用においては、株式や投資信託など投資商品の理解をし、老後への資産形成はどうあるべきか？を考える機会とする。注意点)原則、FP研究会AとB続けて受講推奨。A、Bの後、後期でC、Dの受講。A～Dすべて受講することでFP全科目を網羅できる。	ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得、及びファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会B【簿記3級②】	1・前期後半	大学での学習の結果を「簿記3級資格取得」で表現できれば、本人が自信を増すことになり就職活動においてもアピールできることとなる。「簿記」を初めて学ぶ学生が興味を持てるように、簿記検定の基礎となる仕訳と転記を学びます。簿記検定に必要な仕訳及び総勘定元帳の知識を身につけることが出来ます。	1. 初めて学ぶ「簿記」に興味を持ち、基本的な知識を修得することができる。2. 自らの能力の向上させるために、予復修の課題をこなす。3. 社会人としての必要な会計の基礎を理解することができる。4. 学習を通じて、継続力・忍耐力を身につける。	◎	○	○
実践科目群	研究会C【公務員試験】	1・後期前半	大学生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で非常に有益なものとなります。本講義では各人のやる気を積極的に支援します。この講義は公務員試験合格を目指す学生を対象とした基礎力向上講座です。公務員試験の重要科目数般的推理を中心に問題演習をしていきます。集中的に学習するため、木曜日の3.4限連続で実施します。(後期前半に集中)	1. 能力向上に挑戦する意識を高めること。2. 能力向上に挑戦できること。3. 能力向上に挑戦し続ける方法を身につけること。4. 数的推理の基本問題を解けるようになること。		◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	研究会C【簿記3級③】	1・後期前半	簿記のルールに基づき財務諸表が作られ、それを世界中の人が見て経済活動を行う中、「簿記が分からなければ経済が分からない」と言っては過言ではない程、経済を学ぶ上で、簿記は全ての社会人に共通する必要不可欠な知識である。当講義では、日商簿記検定3級に合格するために必要な基礎力を身に付けることができ、本格的な試験対策講義を行う研究会D(簿記3級④)に繋げていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・合格するために必要な基礎力を身に付けることができる。・学習を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。・当講義を通じて自らの将来(就職)を考えることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会C【エクセル利活用】	1・後期前半	コンピュータによる情報処理についての真の能力が求められる実力社会では、市販ソフトを活用する技術に加えて解決すべき問題について問題解析能力・アルゴリズム構成能力・プログラミング能力が求められる。本授業では、簡易プログラム言語Spread Sheet(MS Excel)を用いて具体的な問題解決手法について実践的に学習する。	1. データの代入、セルの参照、統計関数について理解し、活用することができる。2. 判断分岐(IF関数)について理解し、活用することができる。3. Spread SheetのDatabase機能を理解し、基礎的に活用することができる。		◎	◎
実践科目群	研究会C【社会人基礎講座】	1・後期前半	本講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力をトレーニングします。これらを1年次から意識することで、3年次に始まる就職活動の成功にむけての効果的な準備となります。内容は、企業での若手育成研修の経験を活用した講義・グループワークを実施します。なお本プログラムは木曜日3時限・4時限の2コマ連続で実施していきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものが分かるようになる2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる		○	◎
実践科目群	研究会C【FP技能検定3級③】	1・後期前半	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FPの実務経験を活かし、研究会A・Bの内容を踏まえ、不動産と相続・贈与について授業を実施する。高齢化社会を迎え、相続を前提とした不動産の活用など時事問題も取り上げ、相続対策の方法、自宅(実家)の在り方などについても議論する。注意点)原則、FP研究会AとB受講者を対象とする。後期でC、Dを連続受講推奨。すべて受講することでFP全科目を網羅できる。	ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得、及びファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会D【簿記3級④】	1・後期後半	簿記のルールに基づき財務諸表が作られ、それを世界中の人が見て経済活動を行う中、「簿記が分からなければ経済が分からない」と言っては過言ではない程、経済を学ぶ上で、簿記は全ての社会人に共通する必要不可欠な知識である。当講義では、日商簿記検定3級に確実に合格するために必要な実践力を身に付けることができ、一つの成功体験として資格を取得し、先に控える就職活動および将来に繋げていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・合格するために必要な実践力を身に付けることができる。・学習を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。・当講義を通じて自らの将来(就職)を考えることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会D【エクセルグラフ】	1・後期後半	コンピュータによる情報処理についての真の能力が求められる実力社会では、様々な場面で数値データの可視化が求められる。本演習では、簡易プログラム言語Spread Sheet(MS Excel)を用いて数値データの可視化に不可欠なグラフ化について実践的に学習する。	1. 数値データの特性に応じたグラフの種類を適切に選定することができる。2. 複合グラフ、ピクチャーグラフについて理解し、活用することができる。3. 数値データの可視化のため、グラフを見やすく編集することができる。		◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
実践科目群	研究会D 【FP技能検定3級④】	1・後 期後 半	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FPの実務経験を活かし、研究会A～Cで取り上げた分野を中心に、FP相談現場を想定しながら、様々な事例を教授する。また、FP3級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。注意点)原則、FP研究会A～Cを受講している者を対象とする。	ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得、及びファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会D 【スポーツビジネス】	1・後	本講義では研究会Bでの学びを発展させて、客観的に分かる「成果」を生み出すための時間を過ごしていただきます。授業で学んだことは現場で活用できるのか？自分の理解はどのレベルなのか？をジャッジすること、その成果を受け止めて更に学びの内容を発展させるためのプログラムを活かして行くこと、すなわちPDCAサイクルを身に付けてもらいます。このプロセスは現役の経営者としての視点から、特に実践的に進めていきます。1年生ならではの自由な発想で積極的に取り組み、2年次以降のゼミナールで活用できるスキルを獲得します。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめることができる。□情報化社会に他者に伝わるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□収集した情報を知的財産権を考慮した上で活用することができる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会E 【サービス接客検定】	2・前 期前 半	本演習では、ビジネス系検定のサービス接客検定2級取得を目指している学生を中心に6月検定の合格を目指す。実問題の過去問題を用いて学生が答えを出した後に解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。なお、2級既修得の学生などについては個別に準1級の指導も行う。	・サービス接客検定3級に合格できる。・サービス業に従事するスタッフの求められる資質・能力が理解できる。・正しい言葉遣いや態度が理解できる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会E 【スポーツビジネス】	2・前 期前 半	●スポーツビジネスを中心に、イベント・番組制作など全てのジャンルに対応できる企画の立て方、限定された課題の中で、0からの発想によりアイデアを構築し、企画書を完成させるその企画書を多くの人に理解してもらうためのプレゼン能力を養う。●情報リテラシー世の中に数多ある情報をいかに自分のものにするか？見極める力を養う。自己目標とそれを達成するための戦略と行動計画。	与えられた課題の中で、自由な発想と、ニーズに応えられる企画を構築できる。個人(もしくはチーム)で創造した企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。段取りを見極めて企画をチームで作り上げることができる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会E【大学院】	2・前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、英文翻訳(和訳)や論述を演習をしていきます。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会E 【旅行業務取扱管理者①】	2・前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である旅行業法(旅行業法及びこれに基づく命令)および国内の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務を行う上で守るべきルールが定められている法律を修得することができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	研究会E【FP技能検定2級①】	2・前期前半	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FPの実務経験を活かし、FP相談現場を想定しながら、様々な事例を教授する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	◎	○
実践科目群	研究会E(ことばの世界)(遠隔授業)(留学生用)	2・前期集中	異なる言語集団の中で生活する留学生にとって必要不可欠な言語習得プロセスでは、母語と外国語の間の相違や共通点が無意識のうちに認知されているはずですが、それらを意図的に認識し理解しようとするれば、さらに効果的な言語学習が可能になります。本講義ではそもそも「ことば」とは何かという問題をベースに、レポート執筆やディスカッションを含めたさまざまなアプローチを通して、皆さんの言語学習に有用な言語感覚を身につけてもらう内容構成になっています。	1. 母語としての使用言語と学習途上の外国語の相違や共通性を客観化することができる 2. 日本語の文構造を理解し、より正確な表現ができる 3. 日本語の話しことばと書きことばの違いを認識し、正しく使い分けができる		◎	○
実践科目群	研究会F【スポーツビジネス】	2・前期後半	スポーツアドバイザーおよび会社経営の経験を活かし、授業を展開します。本講義では「スポーツビジネスの分野における課題を解決しよう!」というコンセプトで皆さんに関わっていただきます。前年(2019年)にはギラヴァンツ北九州とコラボレートして行っているシニア健康教室に参加して「高齢者向けの運動実践マニュアル」の作成を行いました。本年度は急速に伸びてきているパーソナルトレーニングジムにおいて活用できる研修プログラムの作成についてチャレンジしてもらいます。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝えるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□収集した情報を知的財産権を考慮した上で活用することができる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会F【社会人基礎講座】	2・前期後半	本講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力をトレーニングします。これらを1年次から意識することで、3年次に始まる就職活動の成功にむけての効果的な準備となります。なお本プログラムに集中的に取り組むため、木曜日3時限・4時限の2コマ連続で実施していきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものが分かるようになる2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる	○	◎	◎
実践科目群	研究会F【大学院】	2・前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、英文翻訳(和訳)や論述を演習をしていきます。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会F【実践外国語】	2・前	This course is based around real-life situations.It gives students everything they need to survive in English overseas.	The purpose of this course is to help the students develop theirEnglish communication skills in preparation for the Japan Chamber of Commerce and Industry's Business English Proficiency Test.Students will be able to understand and make simpleeveryday conversations		◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	研究会F【旅行業務取扱管理者②】	2・前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である約款および海外の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行者等と旅行者との約束事(約款)を修得することができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○
実践科目群	研究会F【2級工業簿記】	2・前	モノづくりを行う企業にとっては、売る前に作る作業が不可欠で、そこでの簿記上の処理が求められると同時に、つくるといふ付加価値を意識して学ぶ。本講義では、工業簿記の基礎を再確認し、日商の簿記検定2級で扱われる問題に取り組む。工業簿記は、難しいという意識をなくして得点力アップを目指す。	①企業が行う製造過程に必要な簿記を学ぶことができる。②モノづくり活動に必要なものに関するコストが理解できる。③工業簿記に必要な財務諸表が作成できる。④原価計算に関する基礎知識を修得することができる。⑤検定試験をクリアできる得点力を磨ける。	◎	○	○
実践科目群	研究会G【秘書検定】	2・後期前半	本演習では、ビジネス系検定の秘書検定取得を目指している学生を中心に11月検定の合格を目指す。実問題の過去問題を用いて学生が答えを出した後に解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。なお、3級・2級既修得の学生などについては個別に準1級の指導も行う。	・秘書検定3級に合格できる。・サービス業に従事するスタッフの求められる資質・能力が理解できる。・正しい言葉遣いや態度が理解できる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会G【スポーツビジネス】	2・後期集中	本講義では研究会Fでの学びを発展させて、客観的に分かる「成果」を生み出すための時間を過ごしていただきます。授業で学んだことは現場で活用できるのか?自分の理解はどのレベルなのか?をジャッジすること、その成果を受け止めて更に学びの内容を発展させるためのプログラムを活かして行くこと、すなわちPDCAサイクルを身に付けてもらいます。このプロセスは現役の経営者としての観点から、現場での即戦力について実践的なプログラムを用いながら授業を展開します。2年生ならではの責任ある行動に心がけて取り組んでいきましょう。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動をとり、お手本を示すことができる。□状況を判断しながら質問し、適宜指示を出す等の働きかけができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも含めて上手に調整することができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめてプレゼンテーションができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□収集した情報を知的財産権を考慮した上で活用することができる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会G【大学院】	2・後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、英文翻訳(和訳)や論述を演習をしていきます。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会G【スポーツイベント検定】	2・後	スポーツイベントは、プロ野球、Jリーグ、Bリーグ、ラグビートップリーグなど福岡県で開催されるプロの試合も数多く、生活を彩る重要なものとなっている。これら大規模イベントから、地域のエリアイベントまで、スポーツイベントに関する仕組みや企画、運営方法について学ぶ。一つひとつのイベントが、開催までどのような準備と運営をされているのか、味の素スタジアムでの実務経験を活かし、実例を挙げながら解説する。本講義を通じて、日本イベント産業振興協会「スポーツイベント検定」受験が可能となる。	①スポーツイベントの基礎知識を習得し、イベントについて説明できる ②スポーツイベントの構造を理解し、スタッフとして働く基礎ができる ③身近にある様々なスポーツイベントに応用できるようになる ④スポーツイベントを企画、運営する会社・団体について理解を深め、就職活動の視野に入れる	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	研究会G【旅行業務取扱管理者】	2・後	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)で合格を左右する科目である国内旅行実務・海外旅行実務について、出題頻度の高い項目を中心に学習することで、確実に合格できる応用力を身に付ける。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務の取引を行う上で必要不可欠なJR・国内線の計算方法を身に付けることができる。・出入国法令として、パスポート(旅券)の申請手続や日本帰国時の税関手続、および出入国実務として、航空時刻表の読み方の知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な応用力を身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○
実践科目群	研究会G【FP技能検定2級②】	2・後期前半	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FPの実務経験を活かし、FP相談現場を想定しながら、様々な事例を教授する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	◎	○
実践科目群	研究会G【環境・品質ISO】	2・後期集中	この科目は、企業や行政機関に導入しているISO規格を内部監査する資格を有する人材を在学中に資格取得させる授業である。後期の集中講義(4日間)を受講することにより、環境マネジメントシステム(ISO14001)内部環境監査員の資格を取得することができる。(有料)試験の合格者は70点以上とする。詳細は掲示板に記載する。	環境マネジメントシステム(ISO14001)を4日間で資格を取得することにより、国際規格の専門性を正確に理解し企業の環境改善活動に適切な意思決定と行動を行うための内部環境監査員としての力量を備える。	○	◎	◎
実践科目群	研究会G【経営学検定】	2・後	本講義は、全国規模で行われる「経営学検定試験」の受験を希望する学生諸君を対象として同検定「初級＝大学生修得レベル」の合格を目標に「専用テキスト」に基づく講義・出題ポイントの解説、また豊富な過去問題への挑戦を通じた実践力の養成を目指します。同検定は企業システム、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題(情報化、国際化、M&A等)の5領域によって構成されており、特に「中小企業診断士」等経営系資格の受験希望者、あるいは経営系の大学院進学を目指す学生の試験対策として有効な機会となります。	・経営学の主要領域(企業システム、経営戦略、経営組織、経営管理等)の重要学説および概念について説明できる。・経営学検定試験の合格レベル(60%以上の正答率)に必要な知識を修得することができる。・中小企業診断士等の経営系資格の受験希望者/大学院進学希望者が試験対策(経営学)として十分な基礎的能力を培うことができる。	◎	○	
実践科目群	研究会H【社会人基礎講座】	2・後期後半	本講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力をトレーニングします。これらを2年次から意識することで、3年次に始まる就職活動の成功における効果的な準備となります。内容は、企業での若手育成研修の経験を活用した講義・グループワークを実施します。なお本プログラムは木曜日3時限・4時限の2コマ連続で実施していきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものが分かるようになる2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる		◎	◎
実践科目群	研究会H【大学院】	2・後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、英文翻訳(和訳)や論述を演習をしていきます。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	研究会H【実践外国語】	2・後	This course is based around real life situationsIt gives students everything they need to survive in English overseas	The purpose of this course is to help the students develop theirEnglish communication skills in preparation for the Japan Chamber ofCommerce and Industry's Business English Proficiency Test.Studnets will be able to understand and make simpleeveryday conversations.	◎	○	
実践科目群	研究会H【2級商業簿記】	2・後	大学生生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で説得力を増すこととなるだけでなく、成功体験が自信にもなるとも思います。この講義は、簿記や会計に関連する資格取得を目指す学生を支援することを目的とします。具体的には、簿記や会計に関連する授業科目で学習した内容を基礎に、検定試験対策を行います。税理士としての経験を活かし、実務上の論点なども踏まえた授業とします。	①簿記や会計の意義を理解できること②個人企業(初級)または中小企業(中級)レベルの記帳ができること③個人企業(初級)または中小企業(中級)レベルの決算ができること④日商簿記検定2級あるいは3級に合格すること	○	◎	○
実践科目群	研究会H【金融リテラシー講座】	2・後	金融に関する基礎から証券取引・投資の実際について取り上げる。経済の基本知識や経済情報の見方や、金融の意味などから、金融機関、金融市場・証券市場について取り上げる。また、株式・債券、投資信託の基本的説明や投資の方法、リスクとリターンなどの実際も説明する。証券市場および投資について全般を理解できる構成としている。なお、講義はリレー形式(1,3,5,7,9,11,13,14回)であり、各回講師は、証券金融ビジネスの実務現場最前線で業務を行っている担当者である。	経済・金融教育を通じて、学生が自らの判断に基づいて行動し、主体的に生きる力を身に付けることを目的とする。単に経済問題についての表面的な知識をつけるだけでなく、社会生活の原理原則というものを十分に理解することを目指す。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会I【旅行業務取扱管理者③】	全・前期集中	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である国内旅行実務についてJRを中心とした国内運賃および国内の観光資源について、国家試験に合格するために必要なノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務の取引を行う上で必要不可欠なJR・国内線の計算方法を身に付けることができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○
実践科目群	研究会J【旅行業務取扱管理者④】	全・前期集中	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(総合)の重要科目である海外旅行実務について出入国法令・出入国実務および海外の観光資源を中心に国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・出入国法令として、パスポート(旅券)の申請手続や日本帰国時の税関手続、および出入国実務として、航空時刻表の読み方の知識を身に付けることができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	経済を運営するには、様々なやり方があることを学ぶ。第一に考えるべきは、自由なのか、平等なのか。どんな社会を作り、どんな原理で経済が運営されれば、人々は幸福になれるのか。経済の動きについて学ぶ。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	経営学・会計学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できます。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・会計学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・会計学への理解を深めます。その際には、各自の進路や興味に経営学・会計学を応用することを重視します。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力をも高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 会計学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる 2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる 3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や 社会との連関のなかで分析し解釈できる 4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる 5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	教科書に基づいて、輪読します。発表者は要約(レジュメ)を作成し、それ以外の学生は、複数の質問を用意して、発表者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・卒論作成のために必要な基礎知識を修得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	当講義では、統計を利用する際やデータを加工する際に注意しなければならない点を、具体例に応じて解説します。また、現実の公的統計におけるデータを題材に、Ms-Excelの最も基本的な計算、作表、作図機能のみを利用した経済分析の手法を紹介します。複雑な機能は用いないで、四則演算と折れ線グラフ・棒グラフの作成だけで、十分な経済分析ができることを実践的に学びます。	①分析の目的に応じて、どのような計算を行うべきか、どのようなグラフを作成すべきかを正しく判断できる。②上記の判断に基づいた計算や図表作成が実行できる。	◎	○	
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、域学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	・このゼミでは、抽象的/理論的に金融を学ぶスタイルではなく、金融業界における個々の業種の外形を分析することにより金融を学んでいきます。チームを組成し、共同して調査・発表してもらいます。社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらうこともゼミの目的です(実務経験)・資格試験の受験者が相当数いる場合、その演習などを行うことも検討します。○ゼミ内容は、チーム別に活動する予定です。初回のガイダンスで説明します。	・金融業界の個別業種およびそれらの業務上の仕組み・ビジネスモデルを理解できる。・金融業界や各業種に関連する情報を自分で収集し、分析、考察を作成することができる。○チーム別に活動を通じて個別の目標達成に向けたPDCAを回せる。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。2年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。2年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	本演習では、創業から100年以上経過し「老舗」と呼ばれている企業を研究対象とする。グローバル化した現代において、長期的な視点で経営を考える機会はほとんどなくなっている。こうした時代であるからこそ、長期にわたって存続してきた老舗企業に学び、継続することの意味を問い直す必要があるように思われる。ここでは、老舗企業を理解するうえで必要となる概念を学習する。	老舗企業の概要について理解し、説明することができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。まず、分析するために必要な知識として、決算書が理解できるようになりましょう。次に法的問題点について理解できるように企業法の基礎について学びます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。	◎	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。	・問題認識、データ取集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	憲法、法学の基本的論点について学んでいきます。特に、現代社会で問題になっているテーマを中心とします。その他、公務員試験対策問題演習も行います。	①指定するテーマについて調べ、論点についてまとめることができるようになる。②指定されたテーマについて討論できるようになる。③その他、公務員試験対策問題に対応できるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身に付けるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、毎回、SPI対策などの演習を実施することで、問題慣れするとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①SPIに関する過去問などの演習問題に解答できるだけの知識を身につける②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	本演習では、ゼミナールⅤまでを通じて行って「自己ブランディング」について考えていきます。そのための手段としてProject Based Learningという手法を用いてイベントの企画や運営という業務を担当します。受け身から転じて積極性を身に付けるにはこの方法以外難しいでしょう。他の授業科目で学んだ知識に加えてコミュニケーション力を高めながら、様々な案件についてチームワーク力を身に付けていきます。自分が得意でないことも他者の力を借りれば可能性は広がります。2つの株式会社と1つの社団法人の経営者の立場で授業を行います。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝えるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。□学びの基礎を習得すると共に情報の収集能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	澤田ゼミが取り組んできた学内外のイベントについて学び、スポーツビジネス領域やイベント関連の産業で将来的に活躍できる人材として必要な基礎的知識や基本動作を身に付ける。	①スポーツビジネスやイベントについて理解することができる。②積極的に活動に参加し、学んだ技術を実践できる。③ビジネスマナーを身につけ、実践できる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門 (再履修用)	2・前	このゼミナール入門では、経済学部の課程において、経済政策について研究していくための準備をします。そのために、まず、この授業では、問題解決について分かりやすく解説した教科書に沿って、順番に、発表・討論を行い、次のことを目標とします。	①問題解決の考え方を理解し得ること。②現代の経済政策の課題を、問題解決の視点から考えることができること。③発表、質疑応答により、コミュニケーション能力の大切さを意識できること。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2・前	就職するため及び仕事をするために役立つ資格に簿記検定やFP検定があります。会社を見極めるために必要な知識として、2年生のうちから簿記検定3級及びFP科目の金融資産運用を学ぶことはとても大切なことです。また、上記の知識を活かして、企業の研究を行いプレゼンテーションを行ってもらいます。ゼミナールⅡにおいて、日商簿記検定の受験を目的とするため、日商簿記検定3級相当の知識を身につけていただきます。	1. 簿記の知識を身につけて、説明ができるようになる。2. 会社四季報に記載されている、財務諸表の意味が理解できるようになる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅠ	2・後	現代経済の流れを大きく理解する。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者との協働し、社会貢献できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者との協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	経営学・会計学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できます。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・会計学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・会計学への理解を深めます。その際には、各自の進路や興味に経営学・会計学を応用することを重視します。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力をも高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 会計学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	教科書に基づいて、輪読します。発表者は要約(レジュメ)を作成し、それ以外の学生は、複数の質問を用意して、発表者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・卒論作成のために必要な基礎知識を修得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	経済分析のレポートのお手本として、日本経済の現状認識と政策運営の実際について政府が執筆・作成した『経済財政白書』を輪読します。どのような事象に着目すべきか、どのような方法で分析するのか、どのような図表で分析結果を読み手に伝えるのかを学ぶのが目的です。経済の現状や政府の政策に関する一般常識を身につけることにより、就職活動に備えます。受講者は数人単位のグループに分かれ、グループ毎に内容紹介の発表をすることとします。これにより、各自の要点把握能力とプレゼンテーション能力を鍛錬します。	①簡便な経済分析手法の習得②要点把握能力の向上③グループ・メンバー内、グループ間のコミュニケーション能力の向上④就職活動の面接時に求められる経済の一般常識の習得	◎	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基礎型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、域学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	金融取引、市場および業界に関連するテーマについて研究します。まず分析の実際的な進め方を習得し、その後分析を手掛けます。チーム内で分担し、自らが立てた計画に基づいて進めてもらいます。社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらうこともゼミの目的です(実務経験)・資格試験の受験者が相当数いる場合、その演習などを行うことも検討します。	・分析可能な具体的なテーマを設定することができる。・必要な分析フローや採用すべき分析手法など計画することができる。・チーム内でコミュニケーションを取りながら、責任をもって担当を遂行することができる。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。2年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。2年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	本演習では、創業から100年以上経過し「老舗」と呼ばれている企業を研究対象とする。グローバル化した現代において、長期的な視点で経営を考える機会はほとんどなくなっている。こうした時代であるからこそ、長期にわたって存続してきた老舗企業に学び、継続することの意味を問い直す必要があるように思われる。ここでは、テーマとなる老舗企業の基礎知識について学ぶ。	老舗企業の概要について理解し、説明することができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナール入門で身に付けた知識を活かし、前半は事例や裁判例の検討を行っていきます。後半は、いよいよゼミ研究の準備に入ります。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的问题点を読み取り問題解決力を身につけることができる。	◎	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	憲法、法学の基本的論点について学んでいきます。特に、現代社会で問題になっているテーマを中心とします。その他、公務員試験教養試験対策を毎回時間をとっておこないます。	①指定するテーマについて調べ、論点についてまとめることができるようになる。②指定されたテーマについて討論できるようになる。③教養試験対策、就職試験対策の問題に対応できるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身につけるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2・後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、公務員試験(初級)対策などの演習を実施することで、問題に慣れるとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①公務員試験(初級)に関する過去問などの演習問題に解答できるだけの知識を身につける②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅠ	2・後	本演習では、ゼミナールⅤまでを通じて行って「自己ブランディング」について考えていきます。前期のゼミナール入門で設定していた目標がどの程度達成できたのかを自己評価し、後期での新たな目標設定を行います。上級生や学外の方ともコラボレートしながら「スポーツに関すること」を主としつつもビジネス実務の全般について経験値を高めていきます。2つの株式会社と1つの社団法人を経営する立場で、実践的(即戦力的)な指導を行ってまいりますので、「課題を解決する」ための能力を積極的に高めていきましょう。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝えるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した基礎的な能力を発揮することができる。学びの基礎を習得します。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅠ	2・後	ゼミナール入門で得た知識や技能を活用しながら、学内外のイベントを一つ担当する。企画段階からプロジェクトに参加し、それぞれのイベントスタッフとして業務を完遂する。幼稚園でのラグビー体験は、サポートスタッフとして経験を積みながら、3年生になった時に内容の改善や効果的な企画を行い、主体性を持って運営できる力をつけるようにする。	①ビジネスマナーを身につけることができる。②スポーツイベントについての理論を実践で活かすことができる。③報告書の書き方を修得し、まとめる事ができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅠ(再履修用)	2・後	このゼミナールⅠでは、経済学部の課程において、経済政策について研究していきます。そのために、まず、この授業では、前期のゼミナール入門で行った、問題解決について解説した教科書の発表・討論をふまえて、次のことを目標とします。	① 問題解決の考え方を踏まえて、研究するテーマを設定し得ること。② レポートや論文の書き方の基本事項を、身につけることができること。③ 発表、質疑応答により、コミュニケーション能力の大切さを意識できること。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅠ(編入留学生用)	2・後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅠ	2・後	就職するため及び仕事をするために役立つ資格に簿記検定やFP検定があります。会社を見極めるために必要な知識として、2年生のうちから簿記検定3級及びFP科目の金融資産運用を学ぶことはとても大切なことです。上記の知識を活かして、老後の資産形成についてプレゼンテーションを行ってまいります。2月の日商簿記検定3級の合格を目指すため、授業の8～15回目に検定対策を実施します。	1.簿記の知識を身につけて、日商簿記検定試験を2月に受験することができるようになる。2.金融投資を学ぶことで将来の資産形成を考えられるようになる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。「イノベーション」に関心を持ち、具体的事例を説明できる。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 シュンペーター的視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	後期に論文を執筆することを前提に、分析スキルを習得し、文献読解・要点把握・プレゼンテーションなどの能力を向上させるため、指定教科書の輪読とグループ発表を行います。これと並行して、学期末までに論文テーマの選択と論文執筆に向けた企画書の作成を行います。輪読に際しては、主題に対して、どのような構成としているのか、どのような資料やデータを用いているのか、どのような分析を行っているのかを意識することで、自分の論文執筆に活かします。教科書としては、日本財政の危機的状況を扱っている図書を使用します。	①幾つかの分析スキルを習得する②文献読解・要点把握の能力を高める③プレゼンテーション能力を高める④適切な論文テーマを選択する	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	経営学・会計学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できます。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・会計学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・会計学への理解を深めます。その際には、各自の進路や興味に経営学・会計学を応用することを重視します。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力も高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 会計学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テクニクの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	卒論構想の発表者は要約(レジュメ)を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問をしてもらいます。発表者は、その質問にその場で回答を行なってもらいます。	・その場で質問をすることを通じて、何が重要であるのかを理解する能力を修得する。・発表者は十分な準備を行なうことの重要性を体得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身につけることを目標とします。本ゼミナールでは、企業経営において必要な会計と税金の関わりについて学び、税務会計の基礎知識を身につけるためにグループワークを通して研究・発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・企業経営に必要な税務会計の基礎知識を身につける。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスラーニングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、域学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べるができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	・金融基礎理論チーム/プライベート・ファイナンス・チーム(資格)および実践学習チームに分けてゼミ活動を行う。・金融基礎チームはテキストおよび各種資料(統計/ニュース・記事等)を通じて学ぶ。・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます(実務経験)。	・プライベート・ファイナンスチームは、FPの全体像について理解したうえで、各細分野の重点事項を深いレベルで理解できることを目的とする。・金融基礎チームは、理論とデータ、世の中の現実から金融現象を観察する力を養うこと、を目的とする。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクトのPDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。ビジネス社会で必要とされている「ビジネスマナー」について理解する。コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	社会人基礎力を高め、自己PRにつなげることができる。コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	本演習では、ゼミナールⅠに引き続き、老舗企業を研究対象とする。長期にわたって存続してきた秘訣を探りつつ、企業にとって継続することの意味を考える。ここでは、老舗企業の具体的な事例をとりあげる。	老舗企業が存続できた要因として「変わるもの」と「変わらないもの」があることを理解し、そこから各自の物事の見方・考え方を形づくることができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ(再履修用)	3・前	このゼミナールでは、経済政策について研究します。そのために、ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠで学んだ経済学の基礎を踏まえ、各自の問題意識にしたがって、順番に、発表・討論を行い、次のことを目標とします。	①経済政策に関する問題意識を明確にし、経済学の基礎理論とのかかわりを考えることができること。②発表用資料の作成、発表、質疑応答により、経済政策の課題についての理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の大切さに気づくことができること。③短い論文を執筆できること。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、2年前期におこなった戦略の「簡易分析」をグレードアップさせる形で日本の「今現在の」優良企業/話題の企業について経営戦略、あるいは経営現象についての分析を行います。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を目指します。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自「卒業論文」の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナールⅠで身に付けた法律や決算書の読み方に関する知識に基づいて、研究に入っていきます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。④プレゼンテーション能力を身につけることができる。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身につけるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身につける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身につける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身につける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	憲法、法学の基本的論点について学んでいきます。特に、現代社会で問題になっているテーマを中心とします。その他、公務員試験教養試験対策を毎回時間をとっておこないます。	①指定するテーマについて調べ、論点についてまとめることができるようになる。②指定されたテーマについて討論できるようになる。③教養試験対策、就職試験対策の問題に対応できるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	本講義では、Vまでを通じて行っていく「自己ブランディング」について「就職」という視点から考えていきます。ゼミナール入門～ゼミナールⅠにかけて経験したゼミの運営方針についての振り返りから、現時点での自分に足りない社会人基礎力の要素について課題を設定し、解決策を検討します。前期の3週目までにゼミナールⅢまで含めての取り組みについて計画を立て、ルーブリックを作成します。個人のルーブリックとチームのルーブリックを連立させて目標設定をして取り組んでいきます。企業・社団法人の現役経営者として授業を展開します。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□個人の成長を助けるルーブリックを作成できる。□チームの成長を助けるルーブリックを作成できる。□情報化社会に対応した基本的なスキルを発揮することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、毎回、就職試験対策などの演習を実施することで、問題慣れするとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする②就職活動の情報を適切に分析・判断できる能力を身につける③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	ビジネスパーソンに必須なスキルとして簿記があります。ビジネスランゲージともいわれる会計情報を読み取るためにも、その基礎である簿記を学ぶことはとても大事なことです。その簿記を学んだことを証明できるまたとない検定試験が存在します。それが日商簿記検定試験です。本ゼミでは、会計情報を読み取るための基礎的な知識となる簿記を学び、その証となる検定試験合格を目指します。	1. 簿記の基本を理解し、記帳することができる。2. 財務諸表に記載されている各項目が理解できる。3. 財務諸表が作成できる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	財務省・金融庁での経験を活かして、授業展開を行う。本ゼミのテーマは、金融を学び、地方創生に貢献し、財政を知るである。金融に関するテキストを輪読するほか、時事問題について、アクティブラーニングを中心に進めていく。また、北九州市・遠賀郡地域の地方創生のため、地元商店街の活性化や地域行事の手伝いに積極的に関わる。	・金融理論と実際の金融政策決定メカニズムの対比を学ぶことにより、専門知識を身につけることができる。・地元商店街の活性化や地域行事に参加することにより、実社会で必要となる教養を学ぶことができる。・地域活動を体験することにより、地域経済の現状と課題を認識できるようになる。・自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけることができる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3・前	ゼミナールⅠまでに学んできたスポーツビジネス分野における専門知識や技能を精査し、他のビジネスにも応用できるように変換していく。就職活動に役立つ面接練習やプレゼンテーションの制度も高め、社会人になっても通用するスキルとして習得する。澤田ゼミの定番イベントとして、福原学園傘下の3幼稚園での「はじめてのラグビー体験」を準備し、実施する。多くの人を巻き込んで準備する体験を持つ。	①ビジネスパーソンとして必要な心構えを学ぶ②ビジネスに必要な「報告・連絡・相談」を身につける③ゼミ内外で円滑なコミュニケーションが取れるようになる④面接やプレゼンテーションの実際の現場で、自分らしく表現することができる	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。「イノベーション」に関心を持ち、具体的事例を説明できる。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 シュンペーターの視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	業界研究や企業研究をしていきます。まずは、日本や中国などアジアの主要産業界や有力企業について調べていきます。産業界や有力企業の状況について理解を深めてからは産業界や企業の抱える課題について理解を深めていきます。その際には、各自の進路や興味に経営理論を応用することを重視します。また、レポートの作成・発表・ディスカッションを行うことで、表現能力を高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した今日でも、留学生の皆さんは毎日のように「異文化」の存在を強烈に意識させられる場面に遭遇するはず。本演習では、皆さん各人が日々体験する「日本という異文化」を、多角的かつ客観的に検証しながら、そもそも「異文化」とは何であるかという問題にアプローチしていきます。そして皆さんが、このことを自国の文化を外側から再認識するための契機としてほしいと考えています。	1自分のなかにすでに構築されていた日本のイメージと現実のギャップを客観化して文章にまとめることができる。2. 出身国と日本の文化的相違を認識し、相互理解のために有効な情報の発見と当該情報の文章による伝達ができる。3. 日本語に含まれる修辭的技法を理解し、行間に込められた筆者(作者)の意図の読解ができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	このゼミは、各人の興味や関心、卒業後の予定進路を踏まえてテーマを設定し、探求するというプロジェクトを内容とします。各人のテーマを1年間かけて掘り下げていきます。まず、ガイダンスと導入部で、基礎ロジカル・シンキングを学び、方法論・アプローチを習得します。次に、自らが選んだテーマを実践的に掘り下げるにより、ロジカル・シンキングの体得を目指します。会社実務経験に基づくプロジェクト運営の実際を指導します。	基礎的なロジカル・シンキングの方法論、アプローチを体得する。対象観察・認識の仕方、分析の仕方、情報の集め方・整理の仕方を学ぶ。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。3年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。3年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ (編入留学生用)	3・前	後期に論文を執筆することを前提に、分析スキルを習得し、文献読解・要点把握・プレゼンテーションなどの能力を向上させるため、指定教科書の輪読とグループ発表を行います。これと並行して、学期末までに論文テーマの選択と論文執筆に向けた企画書の作成を行います。輪読に際しては、主題に対して、どのような構成としているのか、どのような資料やデータを用いているのか、どのような分析を行っているのかを意識することで、自分の論文執筆に活かします。教科書としては、日本財政の危機的状況を扱っている図書を使用します。	①幾つかの分析スキルを習得する②文献読解・要点把握の能力を高める③プレゼンテーション能力を高める④適切な論文テーマを選択する	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。マルクスの関心を持ち、その考え方を理解する。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 マルクスの視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	中心課題は個人研究論文の完成とゼミ内での報告会の実施です。就職活動での面接の際、学業に関して何に取組んだかを問われた場合も、自信を持った受け答えができるように、論文執筆と研究報告の経験を3年次に蓄積します。論文は、1回で完璧なものを執筆しようとするのではなく、説得力の乏しい箇所を補強したり、構成を改めたりする状況も想定しておきます。そのため、夏休み中に第1次稿を作成し、後期に完成させます。その間、指定図書の輪読も続け、論文を見直すうえでの参考にします。	①個人研究論文の完成②研究報告会での発表	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	経営学・会計学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できます。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・会計学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・会計学への理解を深めます。その際には、各自の進路や興味に経営学・会計学を応用することを重視します。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力をも高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 会計学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や 社会との連関のなかで分析し解釈できる4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	卒論の第1次草稿の発表者は発表原稿を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問を行なう。発表者はその場で、質問者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・その場で質問をすることを通じて、何が重要であるのかを理解する能力を修得する。・発表者は十分な準備を行なうことの重要性を体得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を回り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および城学連携活動を実施する。産学官連携活動では、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、城学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。本ゼミナールでは、企業経営において必要な会計と税金の関わりについて学び、税務会計の基礎知識を身につけるためにグループワークを通して研究・発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・企業経営に必要な税務会計の基礎知識を身につける。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	金融取引、市場および業界に関連するテーマについて研究します。まず分析の実際的な進め方を習得し、その後に分析を手掛けます。チーム内で分担し、自らが立てた計画に基づいて進めてもらいます。社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます(実務経験)・資格試験の受験者が相当数いる場合、その演習などを行うことも検討します。・ゼミ内容は、初回・2回目に話し合いを行い、最終的に決定させます。	・分析可能な具体的テーマを設定することができる。・必要な分析フローや採用すべき分析手法など計画することができる。・チーム内でコミュニケーションを取りながら、責任をもって担当を遂行することができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。ビジネス社会で必要とされている「ビジネスマナー」について理解する。コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	社会人基礎力を高め、自己PRにつなげることができる。コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	本演習では、ゼミナールⅡに引き続き、老舗企業を研究対象とする。長期にわたって存続してきた秘訣を探りつつ、企業にとって継続することの意味を考える。ここでは、対象とする老舗企業を選んでその事例研究を行う。	老舗企業が存続できた要因として「変わるもの」と「変わらないもの」があることを理解し、そこから各自の物事の見方・考え方を形づくることができる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ(再履修用)	3・後	このゼミナールでは、経済政策について研究します。そのために、ゼミナールⅢでは、ゼミナールⅡで学んだことを踏まえ、引き続き各自の問題意識にしたがって、順番に、発表・討論を行い、次のことを目標とします。	①経済政策に関する問題意識を明確にし、経済学の基礎理論とのかかわりを考えることができること。②発表用資料の作成、発表、質疑応答により、経済政策の課題についての理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の大切さに気づくことができること。③短い論文を執筆することができること。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、2年前期におこなった戦略の「簡易分析」をグレードアップさせる形で日本の「今現在の」優良企業/話題の企業について経営戦略、あるいは経営現象についての分析を行います。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を目指します。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自「卒業論文」の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナールⅡに引き続き、研究を進めていきます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。④プレゼンテーション能力を身につけることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身につけるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	憲法、法学の基本的論点について学んでいきます。特に、現代社会で問題になっているテーマを中心とします。その他、公務員試験対策問題演習も行います。ゼミ論、卒論に取り組みます。	①指定するテーマについて調べ、論点についてまとめることができるようになる。②指定されたテーマについて討論できるようになる。③その他、公務員試験対策問題に対応できるようになる。④卒論、ゼミ論に取り組み論文内容を説明できるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	本講義では、Vまでを通じて行っていく「自己ブランディング」について「就職」という視点から考えていきます。企業の人事担当者はどのような「人材」を求めているのでしょうか？求められる新人の資質とどのようなものかについて「インターンシップ」や「企業研究」を学んでいくことにします。特に「企画力」、「プレゼンテーション力」と「気配り」の能力について重視し、それらを身に付けるためのワーキングを行います。企業・社団法人の現役経営者として現場で使える能力を高めてもらえるような授業を展開します。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問によって確認することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめることができる。□情報化社会に対応した能力を活用し、外部へ上手に発信できる。□活動の中心メンバーとしてリーダーシップを発揮することができる。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業論文に向けた準備を始めて、資料収集の方法などを習得してもらいます。また、必要に応じて、個別指導を行います。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける③卒業論文に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	財務省・金融庁での経験を活かして、授業展開を行う。本ゼミのテーマは、金融を学び、地方創生に貢献し、財政を知るである。金融に関するテキストを輪読するほか、時事問題について、アクティブラーニングを中心に進めていく。また、北九州市・遠賀郡地域の地方創生のため、地元商店街の活性化や地域行事の手伝いに積極的に関わる。	・金融理論と実際の金融政策決定メカニズムの対比を学ぶことにより、専門知識を身に付けることができる。・地元商店街の活性化や地域行事に参加することにより、実社会で必要となる教養を学ぶことができる。・地域活動を体験することにより、地域経済の現状と課題を認識するようになる。・自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身に付けることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	ビジネスパーソンに必須なスキルとして簿記があります。ビジネスランゲージともいわれる会計情報を読み取るためにも、その基礎である簿記を学ぶことはとても大事なことです。社会人に必要な情報を集め、就職活動へと繋げていきましょう。またインプット・アウトプットの仕方について学びながら、経営分析についても学びます。	1. 簿記の基本を理解し、記帳することができる。2. 財務諸表に記載されている各項目が理解できる。3. 財務諸表が作成できる。4. 貸借対照表が分析できる	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3・後	ゼミナールⅡまでに学んできたビジネス現場で必要とされる専門知識や技能の幅を広げ現場に即応できる柔軟性を身につける。特に、職業の多様性を理解できるような企業研究を行う。就職活動に向けて、特に企業を対象とした面接やエントリーシートの書き方など実習する。可能であれば、企業訪問を行う。前期に引き続き、澤田ゼミのイベントである「ラグビー体験」の2回目を実施し、アンケートを活用して園児、家族のラグビーに対する態度変容を把握する。	①社会人を見据えた行動(ビジネスマナー)が習慣化されている②下級生への目配り・気配り・心配りをし、引継ぎができる③課題を自ら発見し、課題解決のために動くことができる④イベントを自ら企画し、運営し、課題を抽出することができる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。マルクスの関心を持ち、その考え方を理解する。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 マルクスの視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	業界研究や企業研究をしていきます。まずは、日本や中国などアジアの主要産業界や有力企業について調べていきます。産業界や有力企業の状況について理解を深めてからは産業界や企業の抱える課題について理解を深めていきます。その際には、各自の進路や興味に経営理論を応用することを重視します。また、レポートの作成・発表・ディスカッションを行うことで、表現能力を高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した今日でも、留学生の皆さんは毎日のように「異文化」の存在を強烈に意識させられる場面に遭遇するはずです。本演習では、皆さん各人が日々体験する「日本という異文化」を、多角的かつ客観的に検証しながら、そもそも「異文化」とは何であるかという問題にアプローチしていきます。そして皆さんが、このことを自国の文化を外側から再認識するための契機としてほしいと考えています。	1. 自分のなかにすでに構築されていた日本のイメージと現実のギャップを客観化して文章にまとめることができる。2. 出身国と日本の文化的相違を認識し、相互理解のために有効な情報の発見と当該情報の文章による伝達ができる。3. 日本語に含まれる修辭的技法を理解し、行間に込められた筆者(作者)の意図の読解ができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	このゼミでは、ゼミで手掛けたテーマ・プロジェクトを引き続き深掘することを内容とします(横堀/横展開はゼミⅣで行います)。テーマについて、各人もしくはグループで、定義、要因分解、前提条件、必要/十分条件など論理面を固め、分析を進めてもらいます。会社実務経験に基づくプロジェクト運営の実際を指導します。	普遍的なロジカル・シンキングの方法論、アプローチを体得する。ゼミⅡでの成果を踏まえ、意見や質問を求められても自分なりの発言ができるようになる。自分なりの考えを図式化・箇条書きできるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。3年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。3年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べる事ができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ (編入留学生用)	3・後	中心課題は個人研究論文の完成とゼミ内での報告会の実施です。就職活動での面接の際、学業に関して何に取組んだかを問われた場合も、自信を持った受け答えができるように、論文執筆と研究報告の経験を3年次に蓄積します。論文は、1回で完璧なものを執筆しようとするのではなく、説得力の乏しい箇所を補強したり、構成を改めたりする状況も想定しておきます。そのため、夏休み中に第1次稿を作成し、後期に完成させます。その間、指定図書の見直しも続け、論文を見直すうえでの参考にします。	①個人研究論文の完成 ②研究報告会での発表	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。アダム・スミスの関心を持ち、その考え方を理解する。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 自由競争の視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	これまでゼミ論文を執筆した経験がなく、4年次に集大成として論文を執筆したいと考えている人、ゼミ論文を執筆したことはあっても卒業論文を別途執筆したいと考えている人が主たる対象です。後期に論文を執筆することを前提に、分献読解・要点把握・プレゼンテーションの能力を向上させるため、指定図書を輪読します。それを題材にした自由討議も行います。4年次の前期が就職活動のピークと重なる可能性を考慮して、輪読図書の要約発表は個人単位で行います。また、状況に応じて、ゼミの運営の仕方は調整します。	①分析スキルの習得 ②文献読解・要点把握の能力向上 ③プレゼンテーション能力の向上 ④自由討議能力の向上	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	経営学・会計学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できます。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・会計学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・会計学への理解を深めます。その際には、各自の進路や興味に経営学・会計学を応用することを重視します。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力を高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 会計学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる 2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる 3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や 社会との連関のなかで分析し解釈できる 4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる 5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	卒論第2次草稿の発表者は、発表原稿を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問を行なう。発表者はその場で、質問者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・その場で質問をすることを通じて、何が重要であるのかを理解する能力を修得する。・発表者は十分な準備を行なうことの重要性を体得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	ひとり1テーマを基本とする卒業論文またはゼミ論文の執筆を通じてひとりの社会人に足る教養と専門知識・思考力を自分のものにする。	1. 明確な問題意識を説明できるテーマについて、周辺知識を調査・整理することができる。2. テーマについてオリジナリティが認められる論理展開による解決策を提示することができる。3. テーマに関する卒業論文(ゼミ論)を作成し、その内容をプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	この授業では、卒業論文のテーマを決定し、その完成に向けたアプローチを行う。決定したテーマについて、参考文献・参考資料を収集を行い、論文を作成する。また各々のテーマについて、ディスカッションを行い、ゼミでの相互理解を図る。卒業後の進路決定につながる学習を継続して行う。	1. 卒業論文のテーマの決定することができる。2. 卒業論文を作成することができる3. 卒業後の進路決定のための基礎的な知識と学力を身につけることができる。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	本授業では、会計学とその周辺領域を考究する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および城学連携活動を実施する。産学官連携活動では、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、城学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 会計学とその周辺領域について、説明することができる。2. 非営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	本ゼミナールでは、日本の企業と経営について関連した演習課題を各自設定し、研究成果を発表することを通して、自ら課題を設定し解決することのできる能力の育成を目指します。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。興味を持った企業の創業理念や経営戦略等について調べ、その研究結果の発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・経営学に関する基礎知識を身につける。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	・卒業論文の作成を行う。・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として 必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます (実務能力)。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	社会人基礎力を高め、自己PRにつなげることができる。 コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。 ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	本演習では、卒業論文またはゼミ論文作成のための指導とともに就職指導を行う。	研究の総括として、卒業論文またはゼミ論文を完成させる。その過程で、自らの見方・考え方を示すことができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	4年生の前期の演習Ⅳでは、演習Ⅰ～演習Ⅲで行った、課題の調査・考察の発表をさらに発展させるため、論文の作成に取り組みます。この授業では、各自の問題意識にしたがって、順番に、発表・討論を行い、さらにディベートなども行い、次のことを目標とします。	この授業における発表・討論を通じて経済政策を学び、①経済政策に関する各自の研究内容を、演習Ⅴ終了時に20,000字程度の論文としてまとめる準備を進め、論文の構成案・草稿を作成すること。②論文作成過程での発表用資料の作成、発表、質疑応答により、コミュニケーション能力を高める得ること。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	本演習では、2年後期-3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	本演習では、ゼミ研究・卒業研究の指導および卒業後の進路に対する相談指導を行います。3年時の研究テーマをもとに研究を拡大深化させていき、ゼミ研究としてあるいは卒業研究として完成を目指します。また、随時進学・就活支援を行いますので、積極的に取り組んでいきましょう。	①論文の書き方を理解する。②ゼミ研究・卒業研究を完成させる。③プレゼンテーション能力を身につけることができる。④卒業後の進路を決定する。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身につけるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	現代社会で問題になっているテーマを中心として理解を深めます。その他、公務員試験対策問題演習も行います。ゼミ論、卒論に取り組みます。就職活動に必要な面接・作文指導を行います。	①指定するテーマについて調べ、論点についてまとめることができるようになる。②指定されたテーマについて討論できるようになる。③その他、公務員試験対策問題に対応できるようになる。④卒論、ゼミ論に取り組みし論文内容を説明できるようになる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	本講義では、Vまでを通じて行っていく「自己ブランディング」について「就職」という視点から考えていきます。既に始まっている就職活動と並行してゼミの最高学年として責任ある行動を心がけてもらいます。報告・連絡・相談という個人的スキルと指示・手本・助言という組織的スキルを使い分けながら、より良いゼミ参加の在り方について模索していきます。特に忘れがちな業務タスクについては、万一のことを考えて引継ぎや共有といったスキルが必要ですので、現役経営者の立場で「即戦力の基礎づくり」について授業を展開します。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。□状況を判断しながら質問することができる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えも上手に伝えることができる。□個人の成長を助けるルーブリックを作成できる。□チームの成長を助けるルーブリックを作成できる。□情報化社会に対応した基本的なスキルを発揮することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4・前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業研究に向けた研究計画書の作成方法と節業研究の執筆を実践してもらいます。なお、資料収集の方法や分析方法などを、必要に応じて、個別指導していく予定です。	①就職試験に関する過去問などに解答できるだけの知識を身につける②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。⑤卒業研究に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。⑥研究計画書を作成し、分析手法などを身につけた上で、卒業研究を執筆する。	○	○	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人を律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールIV	4・前	ビジネスパーソンに必須なスキルとして簿記があります。ビジネスランゲージともいわれる会計情報を読み取るためにも、その基礎である簿記を学ぶことはとても大事なことです。社会人に必要な情報を集め、就職活動へと繋げていきましょう。またインプット・アウトプットの仕方について学びながら、経営分析についても学びます。	1. 簿記の基本を理解し、記帳することができる。2. 財務諸表に記載されている各項目が理解できる。3. 財務諸表が作成できる。4. 貸借対照表が分析できる。5. 損益計算書が分析できる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールIV	4・前	ゼミナールⅢまでの活動をもとに、実際のビジネスの現場で即戦力に近づけるように、さらに知識・技能のレベルを上げていく。	①大学4年間の総仕上げとして、自分ができること、できないことについて把握することができる。②これまでのゼミナール(Ⅰ～Ⅲ)で、自分が何をしてきたのか、説明することができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールIV (編入留学生用)	4・前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールIV (編入留学生用)	4・前	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。アダム・スミスの関心を持ち、その考え方を理解する。	1. 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2. 自由競争の視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールIV (編入留学生用)	4・前	ゼミⅢまでで取り上げた内容に関したゼミ論、卒論の作成、または大学院受験準備のプロジェクトを実施します。会社実務経験に基づくプロジェクト運営の実際を指導します。	普遍的なロジカル・シンキングの方法論、アプローチを体得する。必要十分な説明資料・ドキュメントの作成ができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールIV (編入留学生用)	4・前	本演習では、3年次後期からに自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、「卒業論文」、あるいは卒業研究レポートの作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べることができる。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4・後	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。アダム・スミス、マルクス、シュンペーターに関心を持ち、その考え方を理解する。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4・後	4年間の集大成となる個人研究論文の執筆を行い、ゼミ内での報告会を実施します。在学中に論文を執筆した経験が実社会に出た後も財産となるように、分析、執筆、報告を通じて、研究を企画して実行する能力、論理的に説明する能力を向上させます。論文は、1回で完璧なものを執筆しようとするのではなく、説得力の乏しい箇所を補強したり、構成を改めたりする状況を想定し、論文完成は時間をかけて行います。その間、指定教材の輪読も並行的に行い、論文を改善するうえでの参考にします。	①個人研究論文の執筆②研究報告会での個人発表③グループのメンバーと協働によるグループ発表	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4・後	経営学・会計学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できます。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・会計学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・会計学への理解を深めます。その際には、各自の進路や興味に経営学・会計学を応用することを重視します。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力をも高めていきます。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 会計学の知識を応用することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4・後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4・後	卒論を完成させます。	・アドバイスをもらうことを通じて、何が重要であるのかを理解する能力を修得する。 ・十分な準備を行なうことの重要性を体得する。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4・後	ひとり1テーマを基本とする卒業論文またはゼミ論文の執筆を通じてひとりの社会人に足る教養と専門知識・思考力を自分のものにする。	1. 明確な問題意識を説明できるテーマについて、周辺知識を調査・整理することができる。2. テーマについてオリジナリティが認められる論理展開による解決策を提示することができる。3. テーマに関する卒業論文(ゼミ論)を作成し、その内容をプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	決定したテーマについて、追加の参考文献・参考資料を収集を行い、論文を完成させる。また各々のテーマについて、ディスカッションを行い、ゼミでの相互理解を図る。卒業後の進路決定につながる学習を継続して行う。	1. 卒業論文を完成させることができる。2. 卒業後の進路決定のための基礎的な知識と学力を身につけることができる。3. 進路を決定することができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	本授業では、会計学とその周辺領域を考究する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および城学連携活動を実施する。産学官連携活動では、地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、城学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 会計学とその周辺領域について、説明することができる。2. 非営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを、社会貢献活動と関係づけることができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	・卒業論文の作成を行う。・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます(実務能力)。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学4年間の学習に自信をつける。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	社会人基礎力を高め、自己PRにつなげることができる コミュニケーション能力に自信が持てるようになる ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	本演習では、卒業論文またはゼミ論文作成のための指導とともに就職指導を行う。	研究の総括として、卒業論文またはゼミ論文を完成させる。その過程で、自らの見方・考え方を示すことができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	4年生の後期の演習Vでは、演習I～演習IVで行った課題の調査・考察の発表をさらに発展させるため、論文の作成に取り組みます。この授業では、各自の問題意識にしたがって設定した課題について、順番に、発表・討論を行い、さらにディベートなども行い、次のことを目標とします。	この授業における発表・討論を通じて経済政策を学び、①経済政策に関する各自の研究内容を、演習V終了時に20,000字程度の論文としてまとめること。②論文作成過程での発表用資料の作成、発表、質疑応答により、コミュニケーション能力を高める得ること。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	本演習では、2年後期・3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べることができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	本科目では、ゼミナールIVに引き続き、研究の指導および卒業後の進路に対する相談指導を行うとともに、社会人としてのルールやマナーをアドバースします。3年時の研究テーマをもとに研究を拡大深化させていき、ゼミ研究としてあるいは卒業研究として完成を目指します。また、随時進学・就活支援を行いますので、積極的に取り組んでいきましょう。	①論文の書き方を理解する。②ゼミ研究・卒業研究を完成させる。③プレゼンテーション能力を身につけることができる。④卒業後の進路を決定する。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身につけるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	現代社会で問題になっているテーマを中心として理解を深めます。その他、公務員試験対策問題演習も行います。ゼミ論、卒論に取り組みます。就職活動に必要な面接・作文指導を行います。	①指定するテーマについて調べ、論点についてまとめることができるようになる。②指定されたテーマについて討論できるようになる。③その他、公務員試験対策問題に対応できるようになる。④8000字もしくは20000字の論文を作成する。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	本講義では就職内定または公務員合格を手中にするか、起業を実現するかを目標に「自己ブランディング」を進めます。社会が求める人材に共通する資質を養い、その上でしっかりと自分・動を先読みすることや「最悪の状態を回避すること」について実践力を磨いていきます。ビジネス実務の現場は裏方の周到な働きがあってこそ成立するものであることを、スポーツ関連の企業や社団法人の現役経営者として具体的な課題を与えて指導します。	□授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示し、リーダーシップを発揮することができる。□状況を判断しながら質問し、適宜指示を与える等のマネジメント力を発揮できる。□他者の考えを傾聴し、自分の考えや行動を調整することができる。□自分のアイデアを他者に伝わるような資料にまとめてお手本を見せることができる。□情報化社会に対する適応能力を発揮し、望ましい形で取り組みを発信することができる。□イベント運営においてゼミ最上級生に相応しいパフォーマンスを発揮することができる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業論文を執筆・報告してもらいます。また、各自の研究に応じた分析方法などを実践してその結果をまとめてもらいます。なお、必要に応じて、個別指導を行います。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。④卒業論文に向けた課題を探すと同時に、資料収集の方法を習得する。⑤研究計画書の作成方法を習得し、分析方法などを身につけて実践する。⑥卒業論文を完成させるだけでなく、研究報告書を作成する能力を身につける。	○	○	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	ビジネスパーソンに必須なスキルとして簿記があります。ビジネスランゲージともいわれる会計情報を読み取るためにも、その基礎である簿記を学ぶことはとても大事なことです。社会人に必要な情報を集め、就職活動へと繋げていきましょう。またインプット・アウトプットの仕方について学びながら、経営分析についても学びます。	1. 簿記の基本を理解し、記帳することができる。2. 財務諸表に記載されている各項目が理解できる。3. 財務諸表が作成できる。4. 貸借対照表が分析できる。5. 損益計算書が分析できる。6. 論文が作成できる。	◎	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4・後	就職活動中の学生は、内定を目指してパフォーマンスを高めることに専念する。4年間の大学生活、3年間のゼミ活動の集大成として、報告書の仕上げとスポーツビジネスコースの縦のつながりを意識した引継ぎマニュアルの作成を行う。今後の社会人としての第一歩を踏み出す準備を行う。	①後輩にスポーツビジネス領域(ゼミ)の活動を引き継ぐことができる②自分のこれまでの大学生活、ゼミ活動をまとめることができる③社会人としての生活の準備ができる	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV (編入留学生用)	4・後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV (編入留学生用)	4・後	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。アダム・スミス、マルクス、シュンペーターに関心を持ち、その考え方を理解する。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV (編入留学生用)	4・後	これまでのゼミⅡ～Ⅳまでの総まとめとプロジェクトの最終的なドキュメンテーションをします。会社実務経験に基づくプロジェクト運営の実際を指導します。	普遍的なロジカル・シンキングの方法論、アプローチを体得する。必要十分な説明資料・ドキュメントの作成ができる。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV (編入留学生用)	4・後	本演習では、3年次より自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象に関するテーマについて個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べることができる。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
旧・コース科目	プログラミング論 (再履修用)	3・前	コンピュータによる情報処理についての真の能力が求められる実力社会では、市販ソフトを活用する技術に加えて解決すべき問題について問題解析能力・アルゴリズム構成能力・プログラミング能力が求められる。本講義では、種々のプログラム言語の概要、問題分析とアルゴリズム全般について基礎的事項を学習したうえで、簡易プログラム言語Spread Sheetによる具体的な問題解決手法について学習する。	1. 任意の2つ以上のプログラム言語の概要について説明することができる。2. 比較的簡単な問題の70%以上について、問題分析し、その解法アルゴリズムを構築することができる。3. 簡易プログラミング言語Spread Sheetを用いて比較的簡単な問題の60%以上を解決することができる。	○	◎	○
旧・コース科目	国際・地域特講A 【地域共同体】	2・前	地域共同体とは何か歴史的に学ぶ。また、市場経済、貨幣経済との関連を学ぶ。現代において、地域共同体について考える意義は何か考える。	共同体とはなにか、説明できる。共同体の現代的意義について説明できる。	◎	○	○
旧・コース科目	国際・地域特講B 【リカード貿易論】	2・後	自由貿易について、賛成論と反対論を学ぶ。リカードがどのような論拠で、自由貿易を肯定しているか、理解する。	自由貿易の是非について説明できる。	◎	○	○